

可認局遞驛

明治二十年三月五日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第二拾五號

英吉利法律學校



目次

○法學通論

(第二十三號續キ)

法學士

山田喜之助
畔上啓策筆記

○經濟學

(第二十一號續キ)

駒井重格
山口正毅筆記

○私犯法

(第二十三號續キ)

法學士

奧田義人
畔上啓策筆記

○質問

(第十五號續キ)

○羅馬法沿革史

法學士

澁谷慥爾
畔上啓策筆記

トチ以テ訴フ然ルニ准契約ノ場合ニテハ一般ノ「エツサンブシット」チ以テ訴チ起ス可シ訴訟手續上特別ノ「エツサンブシット」チ以テ訴フルトキハ一般ノ「エツサンブシット」チ以テ訴フルヨリモ訴ヘ易シトス故ニ准契約ハ訴訟手續上ノ便利ヨリ生シタル者ニシテ道理上何等ノ利益アルコトナシ則チ助法ヨリシテ主法チ生シタル一例ナリ

第二種ノ准契約トハ准契約ノ本色ニシテ法律上眞正ニ契約ト云フヘキモノニアラス則チ損害要償ノ訴チ起スヘキ者チ契約ノ訴名チ以テ訴チ起スコトチ許シタル場合ナリ而シテ此准契約ノ最モ廣ク行ハル、モノハ甲カ丙ニ渡スヘキモノチ誤テ乙ニ渡シタルカ爲メニ丙ヨリ訴ヘラレテ余義ナク丙ニ損害チ拂フタルカ如キ場合ナリトス一例チ示セハ甲ナル運送人アリ丙ニ渡スヘキ荷物チ誤テ乙ニ渡シタルトキ乙其荷物チ消費シタルトセンカ甲ハ丙ニ對シテ損害チ辨償セサル可ラ

ス故ニ其辨償金ヲ乙ヨリ要償スルコトヲ得ルヲ云フ此場合タルヤ甲ト乙トノ間ニハ何等ノ契約ナケレ共乙請取ルヘキニ非サル者ヲ請取リタルカ爲メ甲ニ損害ヲ生シタルヲ以テ法律ハ乙ハ甲ニ損害ヲ仕拂フ可キコトヲ契約シタルモノト見做スモノトス凡ソ何レノ場合ニテモ准契約ハ以上ノ述ヘタルカ如ク金錢ヲ仕拂フタルトキニ生スル者ナリ

○式

契約ニハ兼テ述タル如ク有式契約ト無式契約トアリ英吉利ノ法律ニ於テ有式契約ヲ二ツニ分テ則チ習慣法ニヨリテ有式契約トセラル、者ト條例又ハ商法ニヨリテ有式契約トセラル、者トアリ此有式契約ハ捺印證書以下其他ノ種類ノ重ナル者ハ既ニ述タル所ナルカ此有式契約ノ以外ノモノハ皆通常ノ契約トセリ故ニ單ニ契約ト云フトキハ

通常契約ノコトヲ指スナリ通常契約ハ書面ニ認ムルモ口頭ノ陳述ヲ以テスルモ毫モ其間差別ナキ者トス理論上ヨリ考フルトキハ書面ニ認ムル者ト口頭ノ陳述ヲ以テスル者トノ間ニ區別アルカ如シト雖モ英吉利法律ニ於テハ此二者ノ間ニ何等ノ區別アルコトナシ而シテ此捺印契約ト單純契約トノ間ニ介在シテ准有式契約ト稱セラルモノアリ是ハ條例又ハ商法ニヨリテ定メタル一種必用ノ契約ナリトス其一ハ詐僞條例ニヨリ書面ニ認ムルヲ必要トセラルル契約トス而シテ該條例ニヨリ書面ニ認ムルコトヲ必要トスルモノ如左詐僞條例ハ有名ナル條例ニシテチャールス二世ノ時發布セラレタリ

甲、遺産管理人自分ノ財産ヨリ死者ノ負債ヲ支拂フコトヲ約シタル契約英國ノ法律ニテハ死者ノ財産ニ付請取ルヘキ者ハ之ヲ請取リ負債ノ拂フヘキ者ハ之ヲ仕拂フ者ヲ遺産管理人ト云フ故ニ死者ノ財産

ヨリ負債ヲ任拂フ可キ者ニシテ自分ノ財産ヨリ任拂フヘキ者ニアラズ故ニ若シ自分ノ財産ヨリ任拂フヘキ契約ヲナストキハ書面ニ認ムルヲ必要トス

乙、他人ノ負債又ハ辨償ス可キ金額ヲ自己ニ引受任拂フノ契約例ヘハ甲乙ニ向ツテ拂フヘキ者ヲ丙代ツテ任拂フト云フ契約ノ類

丙、婚姻ヲ約因トシテ結ビタル契約(拙著親族法ニテ既ニ了知セラルル所ナラン)

丁、土地ノ賣買又ハ土地ニ關係スル利益賣買ノ契約

戊、一年以後ニ履行スヘキ契約

己、十[ポンド]以上ノ代價ノ品物ノ賣買契約

右六種ノ契約ハ法律カ特ニ命シテ書面ニ認ムルコトヲ必要トナス者ニシテ世ノ争ヒヲ妨キ又既ニ生シタル争ヲシテ容易ニ決スル爲ニ設

約報

ケタルナリ而ノ斯ル法律カ實地ニ果シテ善ク法律カ希望シタル結果
ヲ生シタリヤ否ハ未タ知ル可カラスト雖モ要スルニ餘リ善良ノ方法
ニアラス

其二ハ流通證書爲換手形約束手形ノ類ハ口頭ニテハ用ヲ爲サス商賣
上書面契約ヲ必要トスル者ナリ

要之英吉利ニテハ或ル契約ヲ有式契約ト定メテ其外ハ悉皆單純契約
トナシ書面ニテモ口頭ニテモ取り結フコトヲ得ルモノナリ而シテ其單
純契約ノ中ニテ以上ニ述ヘタル二種ノ契約ヲ准有式契約トナス也

○約報

約報トハ羅馬流ノ法律ニモ英吉利流ノ法律ニモ存スル所ノ思想ニシ
テ佛蘭西法律ニテハ之ヲ「コラズ」ト唱ヘ英吉利ニテハ「コンシダレ」シ
ヨン」ト云フ此「コラズ」ト「コンシダレ」トシヨシトハ少シク異ナル所アリ

因リテ便宜ノ爲メ前者ヲ約因ト譯シ後者ヲ約報ト譯ス可シ羅馬法ニ
 ヨレハ契約ノ式ニ欠クル所アルカ又ハ約因ノ無キカ爲メニ法律上義
 務ヲ生セサル合意ヲ「ニユーダーパクター」ト云ヘリ而シテ英吉利法律家
 ハ無原因ノ合意ト云フ意義ニ之ヲ解セリ蓋誤リナラン

英吉利法律ニ云フ約報ハ羅馬法ト似寄リタルコトアリ英吉利ニテ約
 報ナケレハ契約ニシテ契約ニアラストセリ然ラハ如何ナルモノガ約
 報ナリヤト云フヲ説明スルコト必要ナリ乃チ約報トハ爲約者ノ利益
 トナルカ又ハ受約者ノ利益トナルコトハ凡テ約報トナル之レヲ例
 セハ只金五十圓ヲ拂フ可シト云フ契約ハ約報ナキヲ以テ無効ナリト
 スレトモ若シ貴殿ヨリ何々ヲ與フレハ金五十圓ヲ拂フ可シト云フ
 トキハ何々ヲ與フルト云フハ爲約者ノ利益ニシテ之レヲ渡スハ先
 方ノ不利益トナル故ニ法律上約報トナリテ其契約ハ有效ナリトス精

言スレハ契約ニテ義務ヲ負フ者己レノ利益トナル事柄カ又ハ先方ノ
不利益又ハ迷惑トナル事柄ヲ約報トナスニ非サレハ契約ハ無効ナリ
俗解スレハ謂レナキ契約ハ恩惠ナリ之レニ義務ヲ負ハシムルハ法律
ノ氣ノ毒ナリトスル所ナレハ何カ返報ナカル可カラストスルニ在リ
現今英吉利學者ニテ約報ハ蛇足ナリト述ヘタルモノアリ尤モノ論ナ
レトモ尙今日ノ現行法ニテハ兎モ角モ約報ナケレハ有效ナラス然レ
トモ有式證書ノ場合ハ約報ナキモ有效トス何トナレハ此場合ハ約報
ナキモ法律ハ約報アリタルモノト推測シ反証ヲ舉グルコトヲ許サ、
ルナリ
約報ハ右ノ如ク契約ヲ維持スルニ必要ナルモノナレトモ其約報ノ大
小ハ法律ノ問フ所ニアラス例セハ蘭ヤ萬年青ノ流行スル時ニハ僅カ
一葉ノ疎々タルモノモ數百圓ニ價スルコトアリ斯カル時ニ於テ之レ

ヲ數百圓ニテ買ハント云フ者アレハ其約報ノ大小ニ拘ハラズ其契約ハ有效ナリトス

約報ノ大小ハ法ノ問フ所ニ非ラスト雖モ約報ニシテ非常ニ寡少ナルトキハ詐僞ノ證據ノ一端トナルヘシ假令約報ノ小ナルモ意思ノ合同アレハ不可ナキモ餘リ小ナルカ爲メ法律ハ不正ニ成リ立チタルカノ疑ヲ抱クヘシ

約報ノ有效ナルコトハ現在ノ約報ナラサル可カラズ例セハ甲乙ニ約束スルニ豫テ貴家ヨリ頂戴ノ馬ハ結構ナリ附テハ何カ答禮セント欲ス故ニ豚十匹與ヘント云フカ如キハ無約報ノ契約ナリトス何トナレハ馬ノ贈與ハ過去ニ屬シ現在ノ約報トナス可カラサレハナリ尤モ有式契約ノ場合ニテハ約報ナキモ契約トシテ充分效力アルモノトス而シテ法律ハ必ズ約報ノアリタルモノト推測スルナリ

○既行約報

既行約報トハ契約ヲ結フ際ニ當リ一方ノ對手人カ約報トシテ成シ遂ケタル所爲ヲ云フ例ヲ以テ云ヘハ物品ヲ引渡セハ代價百圓ヲ仕拂フヘシト云フ契約ヲナストキハ代價百圓ヲ仕拂フヘシトノ約束ハ其當時ニ物品ヲ引渡スト云フコトカ約報トナルヲ云フ既行約報トハ寸分違ハス契約ノ當時ト云フニ非スシテ即チ契約ヲ結フ際ト云フテ可ナリ故ニ取引ヲ相談シ又ハ相談ノ結了セサル前ニ成シ遂ケタルトキハ既行約報トナル此既行約報ト過去ノ約法トハ混同ス可ラス過去ノ約報ハ約因トナラサルナリ

○未行約報

未行約報トハ契約ヲ成立セシムル爲ニ其約報トナルヘキモノニシテ未タ履行セラレサルモノナリ則チ他言セハ後來ニ履行セラレ、モノ

ナリ例ヲ以テ示セハ甲ニ於テ明後日机五脚ヲ持參スルコトヲ約シ乙ニ於テ其時ニ代價五圓ヲ拂フヘシト云フ契約ヲナストキハ代價五圓ヲ拂フヘキ約束ハ明後日机五脚ヲ持參スト云フ契約ノ約報トナル之ヲ反對ヨリ言フトキハ机五脚ヲ持參スヘシト云フ約束ハ代價五圓ヲ拂フト云フ契約ノ約報トナル更ニ他ノ言葉ニテ云フトキハ契約カ契約ノ約報トナルヲ云フモノニシテ尙明瞭ニ云ヘハ甲ノ約束カ乙ノ約報トナリ乙ノ約束カ甲ノ約報トナル

如此現在過去未來ノ約報アリ法律ハ過去ノ約報ハ契約ヲ成立セシムルニ足ラスト爲スト雖モ未來ノ約報ハ契約ヲ成立セシムルニ充分ナリトス則チ其實ハ約束ハ未來ニアラス現在ナリトス右ノ如ク雙方ヨリ約束ヲナシ互ニ其約束ヲ維持スル場合ハ一方ノ約束ヲ他ノ約束ノ條件トナスモ差闕ヘナシ

○約報消滅

場合ニヨリ契約ニ約報有ルカ如ク見エテ其實約報ナキモノアリ言ヒ換レハ外面約報アルカ如クシテ其實無キ場合ヲ云フ例ハ香港ヨリ神戸ニ向ケ入津スル相摸丸一艘代價百圓ニテ買受クヘシトスル契約ハ雙方ノ合意モアリ他ノ事柄ニモ瑕瑾ナケレハ契約ハ成立スト雖其代價ヲ拂フト云フ契約ノ約報ハ舟ナレハ若シ其契約ヲ結フ當時ニアリテ既ニ舟カ事實上沈没セリトスルトキハ斯ル場合ハ對手人ハ自カテ約報アリト信シタルニ實ハ之レ無カリシモノナリ又茲ニ南部産ノ馬アリ甲ハ自分ノ所有ト信シテ乙ニ約束セシニ豈測ランヤ丙ノ所有ナリシ場合ハ此約報アルカ如ク思ヒシニ其實之レ無カリシ場合ニシテ假リニ之ヲ約報ノ消滅ト云フ

約報ノ皆無ニ歸シタル場合ハ法律ハ約報無キモノト同シク見做シ一

方ノ對手ハ契約ヲ取消スコトヲ得ルナリ
或場合ニ於テ約報ノ半ハ存シテ半ハ無キモノアリ例ヘハ小金カ原ニ
在ル馬ヲ賣渡スヘキ約束ヲナシ實地ニ至リテ見ルニ及ンテ過半馬逃
ケタリトスルトキハ之ヲ約報ノ一部消滅トス此一部消滅ノ場合ハ法
律ハ契約ヲ無効トシ得ベキモノトナスヤ否ヤノ問題トナル
約報ノ一半消滅スルコトニ付キ議論アリ實地ノ取扱ニ至リテ頗ル困
難ナルモノナレトモ今大略之ヲ述ヘンニ約報ノ大部分存在スルトキ
ハ法律ハ契約ハ尙成立スルモノトシ一方ノ對手其損害ヲ償フカ又ハ
代價ノ内ニテ相殺スルモノトス英國ニテ昔ハ約報ノ一部分消滅シタ
ルトキハ其損害ヲ要價スルニ止リ代價ノ中ヨリ相殺ヲ求ムルヲ得サ
リシカ併シ不便ノ方法ニシテ其損害ヲ要償セシムルヨリハ寧ロ其場
合ニ於テ始メヨリ相殺ヲ許スニ如カサルナリ又約報ノ過半消滅ニ歸

シタルハ他ノ對手人ハ損害ヲ要求スルトキ契約ヲ取消ストモ隨
意ナリトス
サテ何レマテガ大部分存シタリトシ何レマテカ消滅シタリトスルヤ
ト云フ實地ノ問題起ル者ナリ前段ニ於テ二ケノ約束互ヒニ一方ノ約
報トナル場合ハ一方ノ約束ハ他ノ約束ノ條件トナルコトヲ述ヘシカ
スカル場合ニ於テハ其條件ノ全部ヲ履行スルニ非レハ他ノ契約ヲ維
持スルコト能ハサル可シ例ヘハ馬百匹ヲ引渡ストキハ五百圓ヲ拂フ
可シト契約シ其馬百匹ヲ以テ條件トナシタルトキハ百匹ノ内一匹ヲ
欠クト雖モ五百圓ヲ拂フ契約ハ消滅スヘシ故ニ其條件ニテアリシヤ
否ハ解釋ノ問題トナルヘシ
准有式證書ノ事ヲ前ニ述ヘシカ有式證書ハ約報ナキモ有効ナリ即チ
有式證書ノ場合ハ法律上約報アリト見做スカ故ニ約報ノ有無ハ問題

トナラサルナリ准有式證書トハ爲替手形約束手形及ヒ條例ニヨリ書
面ニ認ムルヲ要スルモノニシテ其約報如何ト云フニ法律ハ一應約報
アリタルモノト推測スルヲ以テ若シ其推測ヲ破ラントセハ尋常ノ契
約ノ場合ニ反シ約報無キ方ヨリ學證セサル可ラス
以上述タル所チ一目瞭然タラシムル爲メ之ヲ圖解スルトキハ如左

{ 申込 + 承諾 = 合意 +) = 約束
(法爲チ組織ナル意思)
式又ハ約報若ハシク式及約報 } = 契約

○豫定損害及罰金

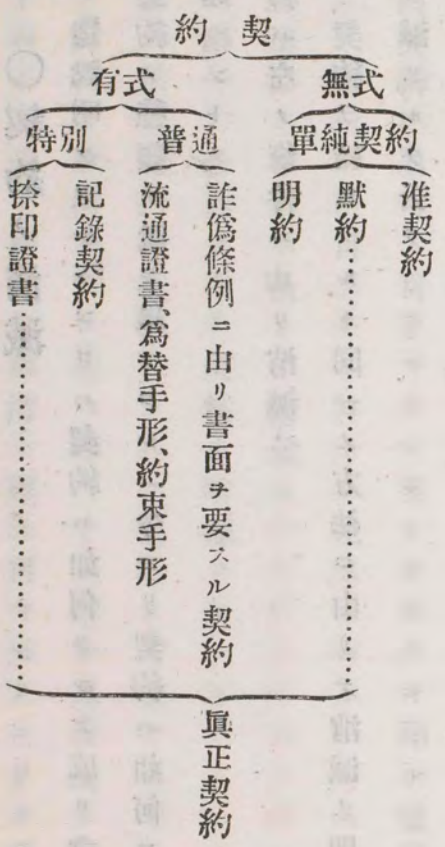
豫定損害
及罰金

法律ニハ豫定損害ト云フモノアリ此ハ約束ノ際一方ノ者違約スルト
キハ多分何程ノ損害起ルナラント預定シタルモノヲ契約ノ當時約束
スルモノナリ之ヲ爲スノ必用ハ後日違約ノ時ニ於テ實際幾何ノ損害
アリシヤ定メ難キ場合アルヲ以テナリ

豫定損害ハ契約者双方ノ善意ヲ以テ定メタルトキハ有効ナリトス然
レトモ損害ノ計算シ易キ時ニ於テ豫メ之ヲ定ムル必用ナケレハ斯カ
ル場合ハ設令豫メ約束シタリト雖モ多クハ實際ノ損害ヲ拂ハシムル
者トス次ニ罰金ノ事ヲ説明スルトキハ隨テ豫定損害ヲモ明瞭ナラシ
ム可シ
罰金ハ違約シタルトキ其罰トシテ拂フ者ナリ此罰金ハ法律ハ之ヲ許
スヤ否ト云フニ許サ、ルヲ以テ正面トセサル可ラズ而シテ過當ノ罰
金ハ決テ之ヲ許サ、ル可シ尤モ罰金ノ名目ニテモ其實損害要償ノ性
質ナルトキハ法律ハ之ヲ許スト雖モ然レトモ眞ニ罰金ノ名ニ背カサ
ルトキハ之ヲ許サ、ルナリ蓋シ罰金ナルモノハ政府又ハ政府ノ委任
ヲ受ケタル者ニアラサレハ徵收スルコト能ハサル者ナリ然ルヲ何ソ
一私人相互ニ之レヲ科スルヲ得ヘケンヤ故ニ眞正ノ罰金ハ法律ハ保

護セサルヲ以テ設令豫定損害ノ名目ヲ以テ約束スト雖モ其實罰金ノ性質アルトキハ法律ハ之ヲ罰金ト見做シ保護ヲ與ヘサルナリ此罰金ニ似寄リタルモノニ沒収ナルモノアリ(刑法ニ定ムル者ニアラス)例ヘハ賣買ノ場合ニ手附金ト稱ヘ買主ヨリ賣主ニ若干金ヲ入レ若シ買主違約スルトキハ此金ヲ沒収シ賣主違約スルトキハ倍シテ之ヲ返スコトヲ約スノ類ナリ此場合ニ於ケル手附金ハ習慣上ハ兎モ角モ尋常ノ場合ニ於テ非常ニ過大ナルモノナレハ法律ハ之ヲ許サ、ル可シ例ヘハ百圓ノ物品賣買ノ時ニ於テ五十圓ノ手附金ヲ約束シ二日ヲ經過シタラハ之ヲ返サ、ル可シトアリタルトキ僅三日ヲ經過シタルヲ奇貨トシテ賣主ハ其手附金ヲ沒收シ併シテ契約ヲ消滅セシメントスルモ法律ハ決シテ之ヲ許サ、ルナリ佛蘭西ノ法律ニ云ヘルコトアリ苟モ自由ノ人間カ相互ニ約束シタルコトハ其効力法律ニ均シト然

レトモ是レ唯人民ニ約束ノ貴重ナルモノタルコトヲ示ス迄ニシテ喻
 エ幾程貴重ナル約束ナリト雖モ右等ノ如キ非道ナルコトヲ爲ストキ
 ハ法律ハ之ヲ救濟セサル可ラス
 上來述ヘタル所ニテ契約ノ事ハ概略説キ畢ルヲ以テ今爰ニ契約ノ表
 ナ作リテ之ヲ示サン



○契約ノ消滅

此レ迄説明シタルトコロハ契約ハ如何ニシテ成リ立ツヤチ述へ而シテ契約ノ種類チ説キ畢リタレハ今ヨリ契約ハ如何ニシテ消滅スルヤチ述へントス

契約ハ左ノ條件ニ由リ消滅ス

第一、契約ヲ結ヒタルト同一ノ方法ニ由リテ消滅ス即チ合意チ以テ消滅スルチ云フ

第二、契約ノ履行ニ由リテ消滅ス即チ金チ拂フヘキ契約ハ該金チ拂フニ由リテ消滅スルチ云フ

第三、契約ノ破毀ニ由リ消滅ス此點佛蘭西法律ト異ナル處ニシテ佛蘭西民法ニハ契約消滅ノ中ニ破毀ノ一項チ掲ケサルナリ英吉利ニテ之チ契約消滅ノ一原由トナスハ全ク權利義務ノ消滅スルト云

契約ノ由

合意ヲ以テ契約ヲ消滅スルコト

フニ非スシテ此場合ニ於テハ契約ノ消滅ニ代リテ新タニ他種ノ
 權利義務ヲ生スルモノトス例ヲ以テ云ヘハ賣買ノ契約ヲナシ賣
 主其賣買ノ目的物ヲ毀ツカ又ハ他人ニ賣渡シタルトキハ舊來ノ
 契約ハ棄リテ新タニ之ニ代ル所ノ權利義務ヲ生ス即チ買主ハ損
 害要償ノ權ヲ得ルナリ

第四、契約ノ履行ス可ラサルニ至リタルトキ即チ或場合ニ於テハ契約
 ナ履行シ得可ラサルコトヲ生スルコトアルベシ

第五、法律ノ作用ニ由リテ消滅ス

第一、合意ヲ以テ契約ヲ消滅スルコト

合意ヲ以テ契約ヲ消滅スルニハ色々ノ方法アリ(甲)ハ單純ニ双方豫テ
 結フ契約ヲ取消チ云フ是レ誰ニテモ解シ易キ所ノ者ナリ英語ニテ「ウ
 エーバ」ト云フ即完全取消ト譯ス可キモノニシテ最モ簡易ノ者ナレ

ハ今更言ヲ待タズ唯通常ノ單純契約ヲ成立セシムル必用條件ヲ具備スレハ可ナリ但シ詐偽脅迫アリテハ不可トス(乙)ハ新契約ヲ舊契約ニ代ヘタル場合ニシテ即チ甲ノ契約ヲ結ンタルカ爲メ乙ノ契約ヲ消滅スルヲ云フ前ノ場合ト異ナルトコロハ更ニ消滅スルト又新タニ代リテ生スルトニ在リ例ヘハ甲ト乙トノ契約ヲ取消シ更ニ甲ト丙トノ契約ヲ生スルヲ云フ(丙)ハ契約其レ自カラノ所定ニ由リ消滅スル者ニシテ例ヘハ契約ヲナス初メニ當リ何々ノ場合ニ消滅ス可シトノ事由ヲ定メタルトキハ其原因ノ來リタルトキハ契約ハ自カラ消滅スル者トス

第二 契約ノ履行ニ由リテ消滅スルコト

契約ハ其所定通り履行スレハ素ヨリ消滅ス即チ金ヲ拂フ契約ヲナシ期限ニ之ヲ拂フトキハ當然其契約ハ消滅スルヤ論無キナリ併シ此レニ付キ言フ可キコトハ仕拂ヒノ完全ナリヤ否ヤニシテ其金ヲ拂フ場

契約ノ履行ニ由リテ消滅スルコト

合ニ於テ先方之ヲ受取リタルトキハ言フ迄モナク消滅スレトモ萬一
之ヲ受取ラサルトキハ如何ト云フコ苟モ人ノ金ヲ拂ハントスルヲ拒
ム馬鹿モノモ有ルマシケレトモ又穴勝無キトモ斷定シ難キ場合アリ
若シ借主ノ慥ナルトキハ一時モ永ク貸シ置キテ其利足ヲ得ント欲ス
ルハ人情ナレハ如此場合ハ或ハ受取ラサルコトアルヤ測ル可ラサル
ナリ恰カモ今日公債證書ヲ有スル者カ其抽籤ヲ免レントスルカ如キ
ヲ見テモ知ル可キナリサレハ斯カル場合ニ於テ萬一之ヲ受取ラサル
トキハ法律ハ提供ト云フコトヲ以テ之ヲ斷定シ乃チ義務者仕拂フヘ
キ金錢ヲ提供シタルトキハ其義務ヲ免レタルモノトス然リト雖モソ
レカ爲メ完ク義務消滅シタルニ非スシテ借リタル金ハ壓ク迄返サ、
ル可ラサレトモ兎ニモ角ニモ契約破毀ノ罪アラサルナリ此提供ヲ有
効ナラシムルニ必要ナル二要素ハ相當ノ時ト相當ノ場所トニ在リ故

契約ノ破
毀ニ由リ
テ消滅ス
ルコト

ニ若シ銀行ノ休業シタル夜ニ於テ門ヲ叩テ借金ヲ拂ハントシ又ハ司
法省ニ拂フ可キモノヲ司法大臣ノ官宅ニ持行キタレハトテ其義務ヲ
盡シタリト云フ可ガラス

第三 契約ノ破毀ニ由リテ消滅スルコト

契約ノ破毀トハ契約不履行ヲ云フ者ニシテ此場合ハ尙契約ヲ消滅セ
シム可キモノトス故ニ一方ノ對手ハ破毀者ニ對シ何時ニテモ損害要
償ノ訴ヲ起シ得ル者トス尤モ是レニ例外アリテ或ル場合ハ契約ノ不
履行アルモ損害要償ノ訴ヲナサス尙ホ契約通りノ履行ヲ訴フルコトヲ
許スコトアリ則チ英吉利ニ於テハ契約ノ破レタルトキハ何レノ場合
ニテモ損害要償ノ訴ヲナスヘキチ原則トシ實地履行ヲ要求スルヲ得
ルハ或ル特別ノ場合ニ限ル者トス契約ヲ破毀シタルニ由リ消滅スル
コトハ其爲メ義務ヲ怠ルモノ利益ヲ得ルニ非ラスシテ更ニ損害要償

契約ノ履
行ス可カ
ラサルニ
至リタル
トキ

ノ責ニ任セサル可ラサルナリ
第四 契約ノ履行ス可ラサルニ至リタルトキ
場合ノ情況ニヨリテ契約ノ履行ス可ラサルニ至リタルトキハ契約ハ
消滅スルモノトス其原因種々アリテ義務者ノ怠慢又ハ不都合ヨリ契
約ノ履行ス可ラサルニ至ルコトアリ或ハ權利者ノ怠慢又ハ不都合ヨ
リシテ契約ノ履行ス可ラサルニ至ルコトアリ或ハ權利者義務者ノ怠
慢又ハ不都合ニアラスシテ偶然ノ結果ヨリ生スルコトアリ例ハ陶
器賣買ノ豫約チナシタル場合ニ於テ義務者ノ不注意ヨリ陶器チ毀損
シ其契約チ履行ス可ラサルアリ又ハ落雷ノ爲メ器物チ損シ其契約チ
履行スヘカラサルコトアリ故ニ之チ三ツニ區別シ(第一)義務者ノ所爲ニ
由リ契約チ履行ス可ラサルニ至ルトキハ尋常ノ義務チ怠リタルト同
シク損害要償ノ責ニ任ス(第二)權利者ノ所爲ニ由リ契約チ履行ス可ラ

は Merger.

法律ノ作用ニ由リ
契約ノ消滅スルコト

サルニ至ルトキハ權利者ノ損害ニ歸ス(第三)天災等ニ由リ契約ヲ履行ス可ラサルニ至ルトキハ色々ノ場合アレ共原則ハ天災ニ由リ履行ス可ラサルニ至ルトキト雖モ尙ホ義務ヲ免ル、可ラストナスニアリ乍併契約者ノ任意ヲ以テ天災ヨリ生スル損害ハ其責ニ任セスト約束スルコトヲ得又ハ契約ノ中ニ含蓄セシムルコトヲ得ルモノトス

第五 法律ノ作用ニ由リ契約ノ消滅スルコト

第一ハ「マーズヤ」ナリ假リニ之ヲ併滅ト譯ス可シ此併滅トハ法律ノ目ヨリ云へハ一等進ンタル保證ノ義務ハ他ノ一等劣リタル保證ノ義務ヲ消滅スルヲ云フ譬へハ口約ヲナシタルト同シ事柄ヲ捺印證書ニ認ムルトキハ口約ハ自ラ消滅スルカ如シ乍併一ノ證據アリテ尙一層之ヲ慥ムル爲メ他ノ證據ヲ付加スルトキハ并存シテ消滅セサルナリ」第二ハ身代限りナリ身代限りニ由リ負債者其負債ノ解除ノ言渡ヲ受

ケタルトキハ契約ハ消滅ス我國ニテハ子々孫々身代ヲ恢復スルトキハ尙履行セサル可ラサレトモ英國ニテハ一旦解除ノ命令ヲ得タルトキハ負フ所ノ義務ハ盡ク消滅スルモノトス

○引渡 コンベイヤンス

引渡トハ取引ノ一種ニシテ既ニ成立シタル權利ヲ甲ヨリ乙ニ移ス手續ナリ例ヘハ贈與ノ如キ賣買ノ如キモノ是ナリ贈與ナルモノハ甲ナル贈與者ヨリ乙ナル受贈者ニ財産權ヲ引渡スヲ云フ又賣買ノ場合ニ於ケルモ同シク賣主ヨリ買主ニ財産權ヲ移轉スルモノナリ此引渡ニモ式ヲ要スルト否トアリ
最モ注意ス可キ點ハ引渡ト契約トノ區別ナリ契約ナルモノハ對人權ヲ一方ニ生シ他ノ一方ニ之ニ相當スル義務ヲ生スル者ニシテ則チ直接ニ權利義務ヲ生セサル可ラス例ヘハ甲乙ニ對シ何日ニ金幾圓ヲ拂

フ可シト云フトキハ其契約ニ由リテ相互ノ間ニ權利義務ヲ生スル者
 ナリ引渡ナルモノハ對人權對世權ヲ問ハス既ニ成立シタル權利ヲ甲
 ヨリ乙ニ移スヲ云フ換言スレハ未タ有ラサル新ナル權利義務ヲ生ス
 ルハ契約ニシテ既ニ存スル舊來ノ權利義務ヲ移スハ引渡ナリトス斯
 ク言ヘハ區別明瞭ナルカ如クナレトモ實際困難ナル場合アリ故ニ狼
 狽ヲ來サ、ル様明了ニ理會セサル可ラス
 今此區別ヲ明瞭ナラシメン爲メ羅馬法ト英佛法トヲ比較スルトキハ明
 ラカナルベシ羅馬法ニテハ賣買ノ約束ヲナストモ所有權ハ移轉セス
 シテ其約束ニ從ヒ引渡ヲナシテ後ヲ始メテ所有權ヲ移轉シタルモノ
 トス英吉利佛蘭西ノ法ニ據レハ賣買ヲ爲ストキハ既ニ所有權ハ移轉
 スルモノトセリ然レトモ其精神ヲ搜索スルトキハ英吉利法ト佛蘭西
 法トハ少異ノ點ナキニアラス

等何事ニモアレ生産上ノ費用ヲ減スルトキハ他ノ事カ同シケレハ地代ヲ増加スヘキノ理ナリ右ニ述フル如ク土地ノ生産ヲ増加スレハ地代ヲ増加スルヲ以テ之ヲ見レハ土地ヲ改良フルハ地主ノ利益タルヲ知ルヘシ元來世ノ開明ニ進ムニ從ヒ人口増加シ食物ノ價騰貴スレハ從ヒテ地代ヲ増加スヘク地主ハ何事ヲモナサス手ヲ拱シテ其歲入ヲ増加スルヲ得ヘキモノナレハ若シ加之ニ資本ヲ投シテ土地ヲ改良スレハ一層地代ヲ増加スルコト大ナルヘキハ明カナリ然ルニ借地農ノ法ニ於テハ容易ニ土地ノ改良行ハレ難キ情アリ地主ハ資本モ裕カナルヘク我資本ヲ以テ我土地ヲ改良セハ敢テ毫モ妨ナキカ如シト雖モ實際ニ就テ之ヲ見レハ土地ノ貸借ヲナスニハ五年十年或ハ九十九年ト年期ヲ定メテ契約スルヲ以テ定約年限中ハ其地代ヲ増加スルヲ得サルヘシ故ニ自ラ資本ヲ投シテ其土地ヲ改良スルモ直チニ自ラ其利ヲ

收ムルコト能ハス皆借地人ノ爲メニ利セラルヘシ之ヲ以テ永遠ニハ
 我利トナルニセヨ目下ハ他人ノ爲メニ資本ヲ投スルノ思アルヲ以テ
 我所有ノ土地ト雖モ容易ニ之ヲ改良スルコトヲ謀ラサルモノナリ借地
 人ニ在テハ其土地ヲ改良スレハ目下ノ利ヲ收ムルコトヲ得ヘシト雖
 モ定約満期ニ至レハ其土地ヲ返還セサルヘカラス假令之ヲ借得ルモ
 地代ヲ増加シテ其利ヲ地主ニ占有セラルヘキヲ以テ敢テ長久ノ計ヲ
 爲シテ他人ノ土地ノ改良ヲ謀ルモノニアラス故ニ借地期限ノ短キハ
 殊ニ經濟上宜シキヲ得タルモノニアラス借地期限ノ非常ニ短カキト
 キ借地人ハ肥料サヘモ十分ニ施スコトヲ厭ヒ却テ土地ヲ荒蕪ナラシ
 ムルニ至ルモノナリ換言スレハ借地期限ノ短キハ土地濫用ノ弊ヲ生
 シ一國ニ對シテ損害アルヲ免レサルモノナリ之ヲ以テ借地ノ改良ハ
 地主ト借地人ト協議整ハサレハ行ハレ難キモノトス之ニ反シテ持地

農ハ地主自ラ其所有地ヲ耕作スルモノナルカユヘニ此點ニ於テハ頗ル利アリトス然レトモ持地農ハ多クハ身代ノ小ナルヲ以テ資本ノ力ニ乏シク大ナル土地ノ改良ハ甚タ行ハレ難キモノナリ元來持地農ハ各自ノ勞力ヲ以テ耕作スルニ過キサレモノニシテ土地ノ區域甚狹隘ナレハ水道ヲ引クニモ隣地ノ所有者ニ協議セサルヘカラス然ルニ協議ヲ調フルコトハ容易ナルモノニアラス故ニ小改良例ヘハ肥料ヲ施ス位ノコトハ行ハル、ト雖モ遠大ノ改良ハ容易ハ行ハレ難キ患アリ尤衆地主皆其利タルヲ知り一致共同セハ如何ナル改良モ行ナハレ難キニアラス方今借地農ノ盛ニ行ハル、ハ英國ヲ以テ最トス英國ノ土地ハ僅々小數ノ富民ノ專有スル所ト爲リ資本ヲ有スルモノト雖モ容易ニ土地ヲ買フテ農業ヲ爲スコト能ハス故ニ農業ヲナサントスルモノハ土地ヲ借り勞力者ヲ傭フテ農業ヲ營ムヲ常トス左レハ借地人即

チ小作人ハ皆堂々タル資本家ニシテ我邦普通ノ小作人ノ類ニアラス
之ヲ以テ大仕掛ニ農業ヲナスコトヲ得ヘシ盛ンニ蒸氣器械ヲ使用ス
ルヲ得テ所謂大業ノ利ヲ占ムルモノハ英國ニ在リ之ニ反シテ持地農
ハ歐洲ノ大陸諸國即チ佛國那威瑞士以太利白耳義普魯士其他獨逸聯
邦ノ諸國ニ於テ行ハル我國ノ如キモ此制盛ンニ行ハル此持地農ト云
フハハゼントプロプライートルト稱シ僅小ナル土地ヲ有シ自ラ資本ヲ
投シ自ラ勞力ヲ投シテ農業ヲ營ムモノナリ此制ニ據ルトキハ土地ノ
狹小ナルカ爲メニ大仕掛ノ業ヲ爲シ器械等ヲ使用スルコト甚々難ク
資本ノ乏シキカ爲メニ其使用シ得ル器具ト雖モ容易ニ改良スルコト
ヲ得サル等ノ不利ヲ免レス然ラハ近隣ノ農夫相共同シテ資本ヲ出シ
一ノ器械ヲ買入レ共有物トシテ使用セハ可ナルカ如シト雖モ耕作ニ
ハ季節アルモノナレハ同時ニ同一ノ器械ヲ二人以上ニテ使用スルコ

トハ到底行ハレサルヘシ例ニハ權兵衛カ器械ヲ使用スルトキハ助入
ハ袖手シテ其使用ノ終ルヲ待サルヘカラズ然ルトキハ大切ナル時期
ヲ經過シテ耕作ノ期ヲ誤ルコトナキヲ保セズ好シ年々使用順番ヲ改ム
ルモ最後ニ使用スルモノハ常ニ該器械ノ効用ヲ爲サ、ルニ至ルコトア
ルヘシ是レ大仕掛ノ行ハレ難キ所以ナリ然ルニ此持地農ハ皆自己ノ
所有地ニ農業スルモノナルカユヘニ其力ノ及フ限りハ永遠ヲ期シテ
土地ノ改良ヲ謀リ注意深切ニシテ土地ヲ濫用セス其費ス所ノ資本勞
力ノ割合ニ比較シテ其收穫スル所或ハ英國ノ大農業ニ及ハサルヘキ
モ其地域ノ割合ニ比較シテ其收穫高却テ大農業ニ勝ルモノアルヘシ
然ラハ則チ國家ノ經濟上ヨリ之ヲ見ルトキハ二者何レカ果シテ利ナ
ルヤヲ斷言スルコト得サルヘシ好シ大農業ハ利ナレハトテ土地小分セ
ラレテ數地主ノ所有タルカ地形伏起シテ平坦ニ乏シキカ勞力ニ事ヲ

缺カサルモ資本裕カナラサルカ等ノ事アレハ大業決シテ行ハルヘカ
 ラス又持地農ニ利アリトテ英國ニ於テ土地ヲ小分シテ農業者ニ所有
 セシムルモ必スシモ利ナカルヘシ
 前ニモ述ヘタル如ク地代ハ競争ニヨリテ定マルモ現ニ諸國ニ行ハル
 、有様ハ多クハ習慣ヲ以テ定ムルヲ以テ實際經濟上所謂地代ナルモ
 ノヲ拂フハ稀ナリ請フ次テ諸國ニ於テ如何ナル習慣ノ行ハル、ヤヲ見
 歐洲ニテ「メテロイヤ」ト稱スル借地ノ制アリ此方法タル借地人ハ土地ノ
 良否ヲ問ハス生産高ノ半額ヲ地代トシテ地主ニ拂フニ起リシモノトス
 然ルニ方今ハ必スシモ生産高ノ一半ヲ以テ地主ニ拂ハス以太利ノタ
 スカニ「イコ」テハ生産高ノ三分ノ二ヲ地代トシテ拂フト云フ是故ニ「メ
 テロイヤ」ノ借地法ト云フハ單ニ借地ヨリ生スル產物ノ若干分ヲ地代
 トシテ拂フニ在リ其歩合ハ半額ナリ三分ノ二ナリ幾分ナリトモ皆重

ニ其地ノ習慣ニ據テ定ムルモノナリ我邦借地法ノ如キモ地方ニ據リテ歩合ヲ異ニスレトモ地代ハ生産高ノ若干分ト云フヲ以テ定ムルヲ常トスルモノ、如シ此方法ニ據ルトキハ習慣ヲ以テ競争ヲ抑制スルヲ以テ借地人ノ營業利益平均セス地主ハ多少其得ヘキモノヲ借地人ニ與フヘシ借地人ハ恩惠質ノ利ヲ得ルモノ少ナカラサルヘシ例ヘハ此法ニ依リテ十分ノ六ヲ地主ニ拂フモノトセハ最下等ノ地ヲ耕ヤスモノト雖モ生産高ノ十分ノ四ヲ以テ資本ヲ回収シ勞力ニ酬ヒ相當ノ利益ヲ収ムルモノト見認メサルヘカラス好シ相當ノ利益ヲ収ムルコト能ハサルモ資本ヲ回収シ勞力ニ報ヒ多少ノ利益ヲ収ムルヲ得ルニアラサレハ借地人ハ損失ヲ被ムルヘキヲ以テ敢テ其地ヲ借ルモノナカルヘケレハナリ若シ果シテ最下ノ地ヲ耕ヤスモノカ生産高十分ノ四ヲ得テ利アラハ其以上ノ地ヲ耕ヤスモノハ生産高ノ十分ノ四ヲ得

レハ異常ノ利益ヲ得ヘキ割合ナリ而シテ借地人カ其度外ニ得タル利益ハ地代トナルヘキモノナルヲ以テ地主ハ尙ホ之ヲ借地人ニ惠與シタルト同一ナリトス

「メテ」ヤ「借地法」ノ地代ハ如此ナレトモ地主ト借地人トノ關係ハ國ニ依リテ異ナリ決シテ一定ナラス則チ地主ヨリ資本ヲ補給スルハ通例ニシテ以太利ノピエドモントモテハ地主カ租稅ヲ拂ヒ建物ノ修繕ヲナシ借地人ハ牛馬器具種子ヲ辨シ佛國ノ革命前ハシヤムペーンニテハ通例地主カ牛馬ト種トノ半ヲ供シ借地人ハ勞力器具及租稅ヲ出シ或場所ニテハ其半ハチモ地主カ負擔スルモノアリ又ル^イシロンニテハ地主カ租稅ノ半ヲ負擔スルト云フ如ク各習慣ニ依リテ定マリ決シテ一定セス然レトモ總テ「メテ」ヤノ行ナル、所ニハ借地人ハ其借地ヲ容易ニ引上ラル、コトナキヲ通則トス其理由ハ此方法ニ據レハ

地主ト借地人トノ關係親密トナリ親戚朋友ノ如キ觀念ヲ生シ艱難相
助ケ吉凶相慶吊スルニ至ルモノトス或ハ借地人ニハ祖先ヨリ繼續シ
テ借地シ居ルモノモアルヘク或ハ地主ト借地人ハ幼稚ノ時ニ竹馬ノ
友トナリ生長シタルモノモアルヘク故ニ地主モ亦己レノ地内ニ住ム
モノニハ他人ノ地内ニ生レタルモノヨリ憐愍ヲ加エ自然少過失アルモ
之ヲ恕スルニ至ルヘク加之ノミナラス假令地代ヲ遷延スルモ地主ニ
於テ之ヲ放逐スルキハ一時糊口ニ困難スルヲ推察スル等彼ヲ思ヒ此
ヲ想ヒ容易ニ無情ノ舉ヲナサ、ルナリビエドモントノ如キハ地主ハ
租稅ヲ拂ヒ建物ヲ修繕シ而シテ地代トシテ生産高ノ三分ノ二ヲ徵收
スレトモ借地料ノ歩合ヲ増ストカ他ニ多額ノ借地料ヲ拂フモノアレ
ハトテ舊借地人ヲ逐出スカ如キコトハ絶テナシト云ヘリ我邦借地農
即チ小作人ノ制モ多クハ此類ナリ故ニ借地人ハ代々同地ノ小作ヲ爲

シ其地ハ尙ホ殆ント私有地ノ如ク思フ情アリテ之ヲ濫用スルコトナ
 ク多少持地農ニ相類スル利益ナキニアラス然ルニ持地農ニ異ナルハ
 己レノ力ヲ以テ土地ノ生産ヲ増加スルモ其一部分ハ常ニ他ノ一方ニ
 利セラル、ニアリ故ニ地主ニ於テ資本ヲ投シテ改良ヲ爲セハ其利ノ
 一部分ハ借地人ニ占メラルヘク借地人ニ於テ骨折テ土地ヲ改良セハ
 其利ノ一部分ヲ地主ニ分タサルヘカラス之ヲ以テ互ニ相譲リ我先ツ
 進テ土地ニ資本ヲ投スルモノナキ嫌ナキニアラス左レハ地主ト借地
 人ノ關係親密ニシテ協議能ク整フモノハ此患ヲ免ル、ト雖モ其間能
 ク熟セサルカ爲メニ耕作ノ振ハサルモノナキニアラス
 「コチヤ」ト稱スル借地ノ法ハ競争ニ依テ地代ヲ定ムルモノナレトモ
 其實地主ハ其得與フ丈ノ地代ヲ収ムルモノニシテ借地人ハ僅カニ今
 日ノ生活ヲ繫ク丈ノ収入ヲ得ルニ過キサルモノナリ其方法タル地代

幾許ト定ムルモノナレトモソハ只名ノミ其實ハ地代ヲ非常ニ高クシ
借地人ハ實際之ヲ拂フコト能ハス甚シキハ地代ノ高却テ實際ノ生産
高ヨリ多ク借地人ハ地代ノ未納常ニ絶ユルコトナキヲ以テ収獲多ク
レハ多キ丈悉ク地主ニ有セラル、モノトス此制ハアヤランドニ於テ
最モ盛ンニ行ハル、モノニシテ千八百四十八年ノ饑饉前ニハ全國殆
ント此制ニ據レリ何故ニ如此ク度外ノ地代ヲ約スルヤト云フニ競争
ニアリ元來英國ノ借地法モ競争ヲ以テ地代ヲ定ムト雖モ其競争ヲ爲
スモノハ資本家ナルヲ以テ無謀ノコトヲナサス如何ニ借地料ヲ競ル
モ極點前陳ノ地代ヲ超過セス之ヲ超ユレハ營業ノ利ヲ減スルヲ以テ
ナリアヤランドニ於テハ競争ヲ爲スモノハ勞力者ノ間ニ在リ其生治
ノ困難ナルカ爲メニ土地ヲ借ラサルモノハ殆ント食ヲ得ルノ路ナク
只目下ノ活路ヲ得ルコ汲々トシテ營業ノ損益等ヲ慮ハカラス如何ナ

ル地代ニテモ土地ヲ貸サントスルモノアレハ之ヲ借ルト云フ勢ナリ
 故ニ已レノ力及ハサルコトヲ知ルモ其高キ地代ヲ拂フコトヲ約シテ
 顧ミス仮令法外ノ約束ヲ爲シテ履行スル能ハサルモ身代ヲ洗フテ取
 ルヘキモノナク地主モ食物丈ハ借地人ニ與ヘサレハ自ラ地代ヲ收ム
 ルコト能ハサルヲ以テ止ムヲ得ス之ヲ猶豫シ負債トナシ置キ取レル
 丈ヲ取ルモノトスルナリ左レハ借地人ハ常ニ負債ノ絶ユルコトナク
 如何ニ勉強スルモ到底今日ノ域ヲ脱スルコトヲ得サルヲ以テ改良杯
 ト云フコトハ夢ニモ見ル能ハス經濟ノ景況ハ決シテ進歩セサルノミ
 ナラス土地ハ次第ニ瘠セ人民ハ努力セズ經濟ノ衰頽スルコト甚ダシ
 尙ホアイヤランドニハ「コトイクル」ト稱スル一種ノ制アリ此方法ハ封
 建ノ遺風ヲ存スルモノニシテ地主ハ勞力者ヲ使役スレハ其報酬トシ
 テ勞銀ヲ與ヘス只肥料ヲ施シタル土地若干ヲ無料ニテ貸與スルナリ

故ニ取モ直サス借地人ハ勞力ヲ借地料トシテ地主ニ拂フモノトス何
レノ國モ封建時代ニハ人民ハ土地ヲ所有セス諸侯ノ領地ニ住シ其地
ヲ借テ耕殖シ事アレハ百姓ハ賦役ヲ出シ士族ハ銃槍ヲ執リテ軍ニ從
フト云フ如ク勞力ヲ以テ借地ノ代ニ供シタリ此制タル敢テ大害ナカ
ルヘシト雖モ勞力ノ效驗ハ必ス甚タ大ナルヲ得サルヘシ
又アイヤランドノオルスタニ於テ一種ノ制アリ此方法ハ借地人カ資
本勞力ヲ費シテ借地ヲ改良シ借地期限滿ルトキ其改良ノ效驗未ダ盡
キサルトキハ地主ヨリ其償補トシテ借地人ニ仕拂フアリ又新借地人
ヨリ舊借地人ニ借地權讓渡ノ代トシテ拂フモノアリ兩法併セ行ハル
ト云フ此方法タル借地人ハ其力アレハ顧慮スル所ナク充分土地ノ改
良ニ力ヲ悉クスヲ得ルヲ以テ借地期限ノ滿ル前ニハ土地ヲ濫用シ
テ地方ヲ荒敗スル等ノ患ナク頗ル便利ナリトス然レモ新借地人ニア

リテハ今ヨリ資本ヲ要スト云フ時ニ當リテ別ニ土地ノ改良代ヲ拂ハサルヘカラサルヲ以テ割合ニ多額ノ資本ヲ要スルノ不便ヲ免レサルコトアリ故ニ地主ヨリ其改良代ヲ拂ヒ年限ヲ定メテ新借地人ヨリ借地代ヲ拂フモノトセハ此方法ハ頗ル便利ナルカ如シ

勞銀トハ勞力者ノ勞働ニ對シテ與フル所ノ報酬ニシテ一日幾時間ノ勞働ニテ一ヶ月又ハ一週間又一日幾許若クハ勞力ノ量幾許ニ付何程ト定メ金錢或ハ物品ヲ支給スルモノトス而シテ其ヲ出スハ生産ノ資本ヨリスルモノナリ元來資本ハ國家ノ富ノ一部分ニシテ富ヲ増加スレハ資本モ亦増加スルモノナリ(勿論富ノ増加ノ割合ニ資本ヲ増加セサルモ)然ルニ生産營業ノ資本ハ其全額ヲ勞銀ニ給スルモノニアラス己ニ講シタル如ク資本ハ流動資本ト不動資本トノ二種ニ分ルモノモ

ノニシテ又其流動資本ハ勞銀基金ト粗生品ノ二種トナル請フ圖式ヲ

以テ之ヲ示サソ



上ノ圖線イロハハ資本ノ總高ヲ示スモノニシテ其イニ

ホノ分圓ハ不動資本ヲ表シニホロハノ分圓ハ流動資本

ヲ表ス而シテ其流動資本ハ又ニホヘノ粗生品上ニハ

ノ勞銀基金トニ分タルヲ圖ノ如シ

此勞銀基金ハ則チ勞酬ニ供スル財本ニシテ勞力ノ需用タリ左レハ勞

力者ノ勞銀ハ此基金ノ外ニ出ルコト能ハサルモノニシテ勞力者勞銀

ノ多少ハ實ニ此基金ノ大小ニアリ其大小ハ何ニ由リ定マルヤト云フ

ニ其重ナルモノハ

第一 資本ノ總高

第二 營業ノ性質

之ナリ已ニ述フル如ク勞銀ハ資本ヨリ供スルヲ以テ之ヲ見レハ其基

金ノ大小ハ資本ノ多少ニアルヘキハ敢テ辨テ待タサルヘシ然ルニ之
 ニ由リテ直チニ勞銀基金ノ高ハ定ムルコトヲ得ス尙ホ資本ヲ分チテ
 勞銀基金トナスヘキ歩合ヲ定ムル情件アリ即チ營業ノ性質之レナリ
 例ヘハ同額ノ資本ナリト雖モ織物製造ノ如キ營業ヲナストキハ資本
 ノ大部分ハ家屋機械粗生品(生糸羊毛綿糸等)等ニ用ヒサルヘカラサル
 チ以テ勞銀基金トナル歩合ハ割合ニ小ナルヘク農業ニ此資本ヲ使用
 セハ不動資本粗生品トナルヘキモノハ小ニシテ勞銀基金トナルヘキ
 割合大ナルヘシ左レハ營業ノ性質ニ由リテ勞銀基金ノ大小ヲ決スル
 チ見ルヘキナリ如斯クシテ勞銀基金ノ大小ハ定ムルモ尙ホ之ヲ受ク
 ルモノ、多少即チ勞力ノ供給ニ由リテ勞力者ノ平均勞銀ヲ決セサル
 ヘカラス是故ニ勞銀基金ノ高ニ變動ナクシテ勞力者ノ數ヲ増加スレ
 ハ勞銀ノ平均高ヲ減スヘク勞力者ノ數ヲ減スレハ勞銀ノ平均高ヲ増

加スヘシ之ニ反シテ勞力者ノ數ニ變動ナクシテ該基金ヲ増加スレハ
勞銀ノ平均高ヲ増加スヘク該基金ヲ減スレハ勞銀ノ平均高ヲ減スヘ
シ若シ二者共ニ増加スルニ其比例ヲ同フセハ勞銀ノ平均高ハ敢テ變
動スルコトナカルヘシ由是觀之勞力者ノ平均勞銀ヲ増サント欲セハ
其基金ヲ増加スルカ若クハ勞力者ヲ減セサルヘカラサルヤ明カナリ
勞銀基金ヲ増加セント欲セハ資本ヲ増加スルニ如クハナシ資本ヲ増
加スルハ富ヲ増加スルニ在リ然ルニ富ヲ増加スレハトテ必スシモ其
増加シタル割合ニ資本ヲ増加スト云フヘカラス資本ヲ増加スレハト
テ必スシモ其割合ニ勞銀基金ヲ増加スルモノニアラス
元來國家進歩シ富ヲ増加スルトキハ驕奢等ノ不生産ニ富ヲ消費スル
コト増加スルモノニシテ國富發達スルニ從ヒテ富ヲ資本ニ使用スル
割合ノ減スルヲ常トス故ニ増加シタル富ハ悉ク資本ニ供セラレサル

ハ勿論其資本トナルヘキ部分モ割合ヲ減スヘシ又資本ハ生産ノ發達
 進歩スルニ從ヒテ機械ノ使用盛ナルヘク又鉄道電線築港疏水灌水
 騰貴スルヲ以テ之ニ使用セラル、部分モ増加スヘク資本ノ總高ヲ增
 加スルモ之ヲ以テ勞銀基金ニ供スル割合ハ次第ニ減少スヘシ然レト
 モ世ノ進歩ハ勞力者ニ在リテ敢テ不利ナルニハアラス勞銀基金ハ增
 スニハ相違ナシ只其増加スル歩合ハ他ノ資本ノ部分ニ及ハサルノミ
 尙前ノ圖式ヲ借リテ其景況ヲ示サン



若シ資本ノ總高「イロハ」ニシテ依然動カサルニ不動
 資本ハ「イニホ」ヨリ増シテ「イニト」トナラハ粗生品ハ減
 カシテ「トニチ」トナリ勞銀基金ハ減シテ「チニハ」トナリ勞
 力ノ需要ヲ減スヘキヲ以テ勞力者ヲ困シムヘシ然ル
 ニ資本ノ總額増加シテ「チワカ」トナリシトキハ假令其

増加ノ割合ニ不動資本ハ「ナリ又」トナリ粗生品ハ「スリル」トナリ勞銀基
金ハ「ルリウ」トナルカ如キ「ナク」不動資本ハ「ナリタ」トナリ粗生品ハ「タ
リヨ」トナルモ尙勞銀基金ハ「ヨリウ」トナルヘキヲ以テ多少之ヲ増加ス
ルヲ得ヘキナリ
一般ノ傾向ヨリ之ヲ云ヘハ勞銀基金増加ノ景況ハ右ノ如シト雖モ尙
ホ一步ヲ進テ之ヲ考フルトキハ其増加シタル資本ヲ放下スル營業ノ種
類ニ由テ又少シク勞銀基金増加ノ景況ヲ異ニスヘシ例ヘハ其増加シ
タル資本ハ重ニ農業ニ投セラレナハ勞銀基金ヲ増スコト大ナルヘク
之ヲ製造業ニ投スルコト多ケレハ勞銀基金ヲ増加スルコト甚タ大ナ
ラサルヘク若シ又之ヲ以テ盛ンニ鐵道ノ建築ニ使用セラレハ勞銀基金ハ
殆ント増加スルコトナカルヘシ是故ニ資本ヲ増加セラレモ國中營業
ノ方向ヲ轉シ勞力ヲ要スルコト割合ニ少キ營業ヨリ其之ヲ要スルコ

ト大ナル營業ニ資本ヲ移ストキハ勞銀基金ヲ増加スルコトアルヘシ
之ニ反シテ國家ノ資本ヲ増加セサルニ突然大ニ鐵道ヲ築クトカ築港
ヲナストカ國中ノ流動資本ヲ移シテ不動資本ニ變スルコトアレハ仮
令資本ノ總高ニ變動ナキモ大ニ勞銀基金ヲ減シ勞力者ノ平均勞銀ヲ
減スヘキナドテ勞力者ノ困難ヲ惹キ起シ爲メニ勞力ノ効驗ヲ失フニ
至ルモ計ルヘカラス如此急劇ノ變動ハ國家經濟ノ平安ヲ害スルモノ
ニシテ余輩ノ敢テ取ラサル所ナリ抑モ勞力者ノ増減トハ勞力ヲ賣ラ
ントスルモノ、増加ニシテ之ヲ賣ラントスルモノハ國民ノ大部分ヲ
占ムルモノナリ故ニ國家ノ人口増加スレハ勞力者ヲ増加スヘク之ヲ
減スレハ又勞力者ヲ減スヘシ然ラハ則チ人口ノ増減ハ勞力ノ供給ヲ
増加スル所ノ一大原因ト云ヘキナリ世運ノ進歩スルニ從ヒテ人口ハ
常ニ増加スルヲ以テ勞力ノ供給ハ日ニ増加ノ傾向アリ而シテ之ヲ需用

スルモノハ勞銀基金ナルヲ以テ人口ノ増加急ニシテ勞銀基金増加ノ
度ニ超ニレハ勞力者ノ平均勞銀ヲ減スヘシ人口ノ増加遅々トシテ勞
銀基金増加ノ度ニ及ハサレハ平均勞銀ヲ増加スヘシ勞力者ノ爲メニ
謀ルニ人口ノ増加ヲ抑制シテ常ニ勞銀基金ノ増加ニ後ル、テ力ムルニ
如カサルナリ然ルニ勞力者ノ愚昧ナル如斯遠慮ナク營業繁昌シテ資本
増加シ勞銀ヲ騰貴スルカ戰爭疫病外國移住等ノ爲メ人口ヲ減シテ勞
銀ヲ騰貴スルカ或ハ物價下落ノ爲ニ勞銀ノ額ヲ増加セサルモ其購買
力ヲ増加スルトキハ此機ニ乘シテ我生計ノ度ヲ改良スルコトヲ思ハ
ス忽チ結婚ヲナシ一家ヲ設立シ數年ヲラスシテ人口ヲ増加シ勞力ノ
供給ヲ増シテ遂ニ再ヒ勞銀ノ下落ヲ來シ生計ノ困難ヲ増加スルカ如
キ情況アルハ實ニ嘆スヘキコトナリ尤勞力者ノ勞銀ヲ裕カニスルハ
永遠ノ原因ト一時ノ原因トアルモノニシテ永遠ノ原因例エハ國富増

加シテ資本ヲ増加スルカ人口減少スルカ或ハ諸營業改良進歩ノ爲メ
 物品ノ價格ヲ減少スルカ如キ永遠ニ維持スルヲ得ヘキ因由アリテ勞
 力者ノ勞銀ヲ増加シタルトキハ人口ヲ増加スルモ非常ニ其度ヲ超ユ
 ルコトナケレハ勞力者ハ其生計ヲ改良スル能ハサルマテノ事ニ止マ
 レトモ一時ノ原因例エハ一時物品需要ノ方向ヲ轉シタルカ爲メニ或
 ル一部分ノ營業大ニ繁昌スルカ又ハ一時繁昌ノ結果トシテ其物品ノ
 供給充溢シタルニ其物品ハ勞力者ノ廣ク需用スルモノナルカ如キ只
 一時ノ出來事ヨリシテ勞力者ノ勞銀ヲ増加シタルトキハ其増加シタ
 リト思ヒシハ只一朝ノ夢ニシテ常ノ景況ニ復スルトキハ人口ヲ増加
 シタル結果ハ我得ヘキ部分ヲ割カサルヘカラサルニ至リ従前ヨリハ
 却テ一層ノ困苦ヲ増スニ至ルヘシ慎マサルヘケンヤ
 人口増加ノ外尙ホ勞力ノ供給ヲ増加スヘキ一原因アリ即チ生産ノ方

雇人ノ私
犯ニ對ス
ル雇主ノ
責任

The liability of masters for the torts of their servants.

第五章 雇人ノ私犯ニ對スル雇主ノ責任

此章ニ於テハ雇人ノ行ヒタル私犯ニ對シ雇主其責ヲ負擔スヘキヤ否
 ナ規定スル法律規則ヲ講述セントス抑モ自己ノ所爲ニアラサレハ其
 責ニ任ゼストハ法律上ノ一大原則ナリト雖トモ他人ヲシテ己レニ代リ
 事ヲ爲サシムルハ自カラ爲シタルト同一ナルヲ以テ古來ヨリ傳ハレ
 ル法語ニ他人ヲシテ爲サシメタル事柄ハ自カラ爲シタルモノナリト
 云ヘルコトアリテ代理法中代理人ノ所爲ニ付キ本人其責ニ任スルハ
 此法語ニ基ヒシタルモノト知ラサルヘカラス而シテ此章ニ講述セン
 トスル所ノ雇人ノ私犯ニ對スル雇主ノ責任モ畢竟其源ヲ此法語ニ開
 キタルコト又固ヨリ明ダシ茲ニ所謂雇人トハ敢テ家僕ノミニ限ルノ
 意ニアラスシテ汎ク雇人ヲ總稱スルコトナレハ代理人ト云フトモ更ニ
 異ナルコトナシサレハ雇主雇人ノ語ヲ改メテ代理人本人トナスモ差

支ヘナキモ此章ニ於テハ普通ニ所謂雇主ノコトニ關係セル場合多キ
 ナ以テ斯クハ雇人雇主ノ文字ヲ用ヒタルナリ然レトモ普通ニ所謂雇
 人ナレハトテ矢張代理人ノ一種類ナルカ故ニ其適用スヘキ法規原則
 ニ至テモ概テ相同シトナス夫レ然リ然レトモ傭人ノ所爲ニ付テハ悉
 ク雇主カ其責ニ任スト云フニハアラスシテ自カラ其中ニ制限アルコ
 ト、知ルヘシ因テ今此章ヲ二節ニ分チ雇人ノ私犯ニ對シ本人其責ニ
 任スル場合ト任セサル場合ト示サントスルナリ

第一節 雇人ノ私犯ニ對シ雇主其責ニ任ス

ヘキ場合

雇人ノ私犯ニ付キ第三者被害者ニ對シ雇主其責ニ任スヘキ場合ニ三
 種アリ退次之レヲ講明スヘシ
 一、雇主豫メ雇人ニ命シテ私犯タル所爲ヲナサシメタル場

雇人ノ私犯ニ對シ
 雇主其責ニ任スヘキ場合

合

雇主豫メ雇人ニ命シテ私犯タル所爲ヲナサシメタル場合ニ於テ第三者ニ對シ雇主其責ニ任セサルヘカラサルノ理由ハ今更之レテ喋々セサルモ前ニモ述ヘタルカ如ク他人ヲシテ爲サシメタル事柄ハ自カラ爲シタルモノナリト云ヘル法語ニ基ヒスルコト明々白々タリ

二、雇人ノ私犯タル所爲ヲ雇主ニ於テ追認シタル場合

雇人若シ權利外ノ所爲ヲナシ他人ニ損害ヲ加ヘ又ハ他人ノ權利ヲ傷ケタル後雇主タル者其所爲ヲ追認スルトキハ其所爲ハ即チ雇主ノ命ニ從テ爲シタルモノト同一ノ結果ヲ生シ雇主ハ其由テ生シタル損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラサルナリ夫レ然リト雖トモ雇主ノ追認ハ如何ナル場合ニ於テモ雇人ノ所爲ヲシテ雇主ノ所爲トナスノ効アリヤト云ハ、決シテ然ルニアラス其追認ヲシテ有効ナラシメノニ

ハ○雇○人○ノ○所○爲○ハ○雇○主○ノ○爲○メ○ニ○爲○シ○タ○ル○モ○ノ○ニ○非○サ○ル○ヘ○カ○ラ○サ○ル○ナ○リ
 故○ニ○雇○主○ニ○於○テ○一○タ○ヒ○雇○人○ノ○所○爲○ヲ○追○認○シ○タ○ル○已○上○ハ○其○所○爲○ハ○假○令
 雇○主○ノ○利○益○ト○ナ○ラ○ス○シ○テ○或○ハ○却○テ○其○損○害○ト○ナ○ル○モ○尙○ホ○追○認○ノ○効○ア○リ
 テ○雇○主○其○責○ニ○任○セ○サ○ル○ヘ○カ○ラ○ス○然○ル○ニ○茲○ニ○一○ノ○注○意○ヲ○促○サ○ル○ヘ○カ
 ラ○サ○ル○ハ○他○ニ○ア○ラ○ス○雇○人○ノ○私○犯○ニ○付○キ○テ○ハ○雇○主○ハ○其○之○レ○ヲ○追○認○ス○ル
 ト○否○ト○ニ○拘○ラ○ス○其○責○ニ○任○ス○ヘ○キ○ハ○次○項○ニ○述○ヘ○ント○欲○ス○ル○所○ナ○ル○ニ○此
 項○ニ○於○テ○ハ○雇○主○カ○雇○人○ノ○私○犯○ニ○對○シ○其○責○ニ○任○ス○ル○ト○キ○ハ○恰○モ○其○所○爲
 ノ○追○認○ヲ○要○ス○ル○カ○如○ク○見○ユ○ル○是○レ○ナ○リ○然○レ○ト○モ○決○シ○テ○斯○ル○意○ニ○ハ○ア
 ラ○サ○ル○也○然○ラ○ハ○則○チ○茲○ニ○所○謂○追○認○シ○タ○ル○場○合○ト○ハ○如○何○ナ○ル○場○合○ヲ○指
 ス○カ○ト○云○ハ○、○假○令○ヘ○ハ○甲○者○ア○リ○豫○メ○乙○者○ヨ○リ○委○任○ヲ○受○ケ○ス○シ○テ○該○乙
 者○ノ○爲○メ○ナ○リ○ト○揚○言○シ○自○己○ノ○爲○メ○ニ○ア○ラ○サ○ル○コト○ヲ○ナ○シ○其○際○ニ○私○犯
 タ○ル○所○爲○ノ○ア○リ○タ○ル○場○合○ニ○於○テ○乙○者○若○シ○後○ニ○甲○者○ノ○所○爲○ヲ○追○認○ス○ル

トキハ豫メ委托シタルト同シク其所爲ハ直チニ乙者ノ所爲トナルカ
如キ場合ヲ云フナリ故ニ語ヲ換ヘテ之レヲ云ヘハ雇人權限外ノ事柄
ナシテ其際ニ私犯タル所爲ノアリタルトキ云フナリ諸君宜シク
注意スヘシ

三、雇人ノ爲シタル所爲ハ雇主ノ命シタルニモアラス又後
日雇主ノ追認シタルモノニモ非サル場合

雇人ノ爲シタル所爲ハ雇主ノ命シタルニモアラス又後日雇主ノ追認
シタルモノニモ非サル場合ニ雇主ガ其責任ヲ負フトハ如何ナル場合
ニアルヤト云ハ、

甲、雇主ノ委任シタル事柄ヲ行フニ際シ雇人ノ不注意ヨリ他人ニ
損害ヲ蒙ラシメタル時

雇主雇人ヲシテ或ル事柄ヲ行ハシメタルニ其事柄ハ適法ナルモ雇人

ハ之レヲ行ヘル方法又ハ狀況宜シキヲ得スシテ私犯タル所爲アリタルトキニハ雇主其責ニ任セサルヘカヲサルナリ例ヘハ馭者其雇主ノ馬車ヲ不注意ニ疾驅シテ他人ヲ傷ケ又ハ野獸ヲ獵ル爲メ雇ハレタル者兔ヲ擊タントシテ傍人ヲ殺傷シ若クハ建築ノ爲メ雇ハレタル者注意ナ欠キ屋上ヨリ瓦石ヲ落シ他人ヲ傷ケタル等ノ如キ場合ニ於テハ被害者ハ雇主ニ對シ損害賠償ヲ請求スルヲ得ヘシ蓋シ雇主ハ雇人ノ服務中ニ起ルヘキ所爲ヨリ生セル損害ニ付テハ公衆ニ對シテ自カラ擔保セサルヘカヲサルカ故ナリ

乙、雇主ノ委任シタル事柄ヲ行フニ際シ雇人故意ニ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタル時

雇人雇主ノ委託セル事柄ヲ行フノ際雇主ノ利益ヲ計リナシタル所爲ハ假令ヒ其方法雇主ノ命令ニ違フモノナルモ其所爲ニシテ委託權

限内ニアリ得ヘキモノナルトキハ雇主其責ニ任セサルヘカラスルナリ然レトモ唯ニ方法ノミナラス其事項素ヨリ不法ナルトキハ雇主其責ニ任セス例ヘハ甲乙兩所間ノ往復ヲ業トセル馬車會社ノ馭者雇主ナル會社ノ命令ニ背キテ途上原告馬車ノ往來ヲ妨ケント欲シ故サラニ其往來ヲ横切リタリ於是原告ハ會社ニ對シ要償ノ訴ヘチ起シタルニ馭者ノ所爲若シ其雇主ノ用ヲ達シ居ル時ニアリテ而シテ該雇主ノ爲メ最モ利益アリト認メテ行ヒタルモノナレハ會社ハ其責ニ任セサルヘカラス畢竟會社責任ノ有無ハ馭者ノ所爲其服務中ニアルヤ否ニ由ルモノニシテ假令ヒ會社カ馭者ニ斯クノ如キ所爲ヲ禁シタルコトアルモ決シテ其責ヲ免ル、能ハスト判決サレタリ若シ夫レ雇主ヨリ斯ル内論ヲ雇主ニ下シ置キタルヲ以テ雇主其責任ヲ免ル、コトヲ得ルモノトセハ雇主ハ殆ト其責任ヲ免レサル場合ナキニ至ルヘシ故ニ

斯ル内論ハ第三者ニ對シテハ更ニ其効ナキナリ然レトモ若シ雇人ニ
 シテ雇主ノ利益ノ爲メニアルニアラス自己ノ私情ヨリ斯ル所爲ニ及
 ヒタルトキハ雇主其責ニ任セサルハ勿論ナリ又例ヘハ甲者アリ瀛車
 ニ乘リ某所ニ赴ント欲シテ鐵道線路ニ到リ誤テ他ノ列車ニ乘レリ於
 是會社ノ役員甲者ヲ捕ヘ暴ニ車外ニ引出シタレハ甲者爲メニ傷ヲ負
 ヒタリ然ルニ會社ノ定規中ニハ斯ル乗客ヲ引出スコトヲ禁シ又乗客
 タハ大切ニ取扱フヘキコトヲ命セリサレハ右ノ如キ場合ニ於テ役員
 ハ會社ノ禁シ居ル事ヲ行ヒタルモノナレハ該會社ハ其責ニ任セサル
 モ可ナルカ如シト雖トモ列車ヲ誤マリタル乗客ヲ穩カニ乘リ易ヘシ
 ムルハ其權内ニアルコトナルニ不法ノ腕力ヲ用ヒシハ則チ其權ヲ暴
 用セシモノナルヲ以テ會社ハ其責ヲ免ル能ハサルカ如キ是レナリ
 己上論述シタル所ハ則チ雇人ノ私犯ニ對シ雇主其責ニ任スル場合ノ

大要ヲ示シタルモノナルカ右ノ内第一及ヒ第二ノ場合ハ前ニ述ヘタル他人ヲシテナサシメタルノ所爲ハ自カラ爲シタルナリト云ヘル法語ニ基キテ雇主ニ其責ヲ歸スル譯ナレトモ第三ノ場合ニ至テハ此法語ヲ適用スヘカラサルヲ以テ別ニ理由ノ存スルモノアレトモソハ諸君カ代理法ニ於テ詳カニ了知セラレタル所ナルヘキカ故ニ茲ニ重復チ省キテ講明セサルヘシ之レヲ要スルニ雇主ノ自カラ雇入レタル者タルト又雇主ヨリ雇入レノ任ヲ受ケタル者ノ雇入レタル者ナルトチ問ハス苟モ雇主ノ事務ヲ行フニ際シ其服務ノ範圍内ニ於テ或ル所爲チナシ其所爲私犯タルニ於テハ不注意ヨリ起リタルト又故意ニ生シタルトニ論ナク雇主自カラ其責ニ任セサルヘカラサルナリ然レトモ受負人復受負人其他獨立ノ職業ヲ以テ雇ハル、者ハ雇人トシテ論スヘキ限ニアラス故ニ家僕

奴婢ハ勿論手代番頭ヨリ會社ノ役員ノ如キ総テ雇主ノ自カラ役ヲ命
 シ直接又ハ間接ニ監督セル者ハ雇人ニ外ナラサルナリ例ヘハ船主船
 長ヲ雇ヒ其船長ヲシテ水夫ヲ雇ヒ入レシムレハ水夫ハ則チ船主ノ雇
 人ニシテ船主タル者ハ水夫ノ錯誤若クハ暴行ヨリ起レル損害ニ對シ
 其責ニ任セサルヘカラサルカ如キ是レナリ
 夫レ然リ然リト雖トモ雇主カ命シタルコトモ又追認シタルコトモナ
 キ雇人ノ所爲ニ付キ雇主其責任ニ任スヘシト云ヘル法則ハ諸君カ代
 理法ニ於テ學ヒ得タルカ如ク素ト奴隸ノ所爲ニ付其主人ヲ檢束スル
 爲メニ設ケタル所謂蠻俗ノ遺風ニシテ管ニ法律上ノ假想ヲ以テ雇主
 雇人ノ間ニ限リ今日ニ尙ホ行ハルモノナレハ受負人復受負人其他
 獨立ノ職業ヲ以テ雇ハルモノニハ此規則チ及ホスヘカラサルナリ
 故ニ例ヘハ甲者アリテ乙者ナル受負人チシテ或ル工事ヲ負擔セシメ

有シ居リタルモノナルヤ
 三 或ハ災害ヲ除キ或ル公益ヲ來タスト信シテ人ヲ殺シタル外ハ
 責ヲ免カルヘシトノ意カ假令甲者アリ乙者ノ才學兼備ニシテ
 人望アルヲ嫉ミ之ヲ殺シタル如キ場合ハ如何

○代理法

第一問(講義錄第十號)ニ答フ

委任文言兩様ニ解シ得ラル、場合ニ於テ代理人カ本人ノ思フ所ト違
 フタル方ニ其文言ヲ解シタルトキハ代理人ヲ咎ムヘキニアラス代理
 ナ頼ムモノハ委任ノ趣意ヲ明瞭ニ傳エテハ成ヌ答ナルコ甲乙孰レコ
 テモ解シ得ラル、様ナル不分明ノ申付ヲ爲シタルハ固ヨリ本人ノ不
 調法ナリ左スレハ代理人ノ解シ方ニ因リ本人カ迷惑ヲスルトモ本人
 ニ取テハ身カラ出ク靖ト諦ラメサルヲ得ス衡平法ノ原則ニ無辜ノ兩

人孰レカ迷惑ナセ子ハナラヌトキハ事ヲ仕出カサセタル方ニテ迷惑
 ス可シト云フコトアリ本問ノ場合ニ適用スレハ本人モ代理人モ共ニ
 惡意故意アルニアラサレトモ孰レカ迷惑ヲ被ラスシテハ叶ハズ然ル
 ニ本人カ不明確ノ委任ヲ爲シタルカ事ノ起因ナレハ迷惑ハ本人ニ歸
 スル様ニ委任ノ文言ヲ解釋ス可シ即チ代理人ノ解釋ヲ相當トス可シ
 トノ趣意ナリ

第二問(講義錄第十號)ニ答フ

講義錄第二號八丁ニ代理人ノ資格ニハ制限ナシトノ旨ヲ説キタル所
 ニ[代人規則ヲ見テモ明ラカナリ]トノ文言アルニ付キ不審ヲ抱レタル
 ハ至極允ニテ講者サエモ同規則第三條ノ明文アルコト左様ノコトヲ申
 シタリトハ不審ニ堪ヘス念ノ爲メ草稿ヲ改ムルニ考證トシテ佛民法
 千九百九十條ヲ引キ但代人規則第三條ヲ參觀ス可キ旨記シアリ何レ

言違カ書違カニテ斯ル不束ナル文句ノ印刷ニナリタルモノトハ存ス
レトモ鹿忽不氣付ノ段ハ一向スラ詫入り且ツ誤リヲ注意被成下タル
段ハ深ク感謝スルノ外餘念ナシ尙卒他ノ講讀者モ安藤亥太郎君ノ如
ク深切ニ閱讀アリ度事ナリ
扱本人ト爲ルハ却テ易キモ結婚婦幼年者ノ如キ無識ナル者カ他人ノ
代理人ト爲ルハ實際出來得ヌ事ナリトノ論難ハ然ル可カラス近イ話
ハ小兒カ父ノ使ニ酒屋ヘ往キ酒ヲ注文シ妻ハ夫ニ代リテ家主ヘ店賃
ヲ拂フカ如キハ何國ニモ日常アル事例ナルノミナラス酒賣買ノ契約
若クハ借屋賃ノ支拂ヲ無効ナリト判斷シタル判決例ハ我邦ニ於テモ
見聞セサル様ニ覺フ凡ソ何人ニテモ代理人ヲ命スルニハ其爲人ヲ吟
味シタル上ニテスルカ常ナリ一切譯ノ分ラヌ者ヲ代理人ニ立テ大切
ナル取引ヲ委任スルハ稀有ノ事ナレハ法律カ代理人トナル資格ニ制

限ヲ置ヌハ當然ナル次第ト思ハル之ニ反シテ本人タルノ資格ニ制限
 ナ設サル時ハ本人自カラ爲シ得サル事柄モ代理人ナレハ爲スコトヲ
 得ルカ又ハ婚姻ノ如ク是非本人ノ爲ス可キ事ヲモ代理人ニテ取扱ヒ
 得ル次第ニ立至ルヘシ
 序ニ申シ置クコトアリ質問者ハ結婚婦幼年者ハ無識ナリト申サルレ
 トモ餘リ思切タル評ナリ法律ハ或事柄ニ付テハ右等ノ者ヲ保護スル
 ノ目的ヲ以テ能力ヲ與ユサル迄ノ事ナリ決シテ此二者ヲ馬鹿ト看做
 スノ意ナラス其證據ニハ他ノ事柄例ユハ必需品ニ關スル契約ニ付テ
 ハ能力ヲ付シ置ナリ

第三問(第六號六五丁) 清水和太郎

我國ニテ士族平民又ハ農工商ト記スルカ如ク代理人タル何某ヲ他人
 ト區別スル丈ケノ効能アルノミ別ニ身分職業ヲ記セサルモ既ニ代理

六二
人ノ姓名アレハ則チ他人トノ區別明瞭ナルニアラスヤ

答

捺印證書ノ署名ノ場所ニ本人ノ名前ヲ署セス只代理人ノ氏名ノミヲ署スルトキハ假令肩書ニ何會社頭取若クハ誰某代理人ト記スルモ其肩書ハ偏ニ代理人ト爲リ居ル何某ノ人分ヲ明カニスル丈ノ効能アルノミニテ本人ヲ拘束スルノ効力ヲ有セス代理人ノ姓名ヲ工藤太郎ト假定センニ世ニ工藤太郎ト稱スルモノ幾人アリトモ此署名人ハ何會社ノ頭取役若クハ誰某ノ代理役ヲ勤ムル工藤太郎ニテ他ノ同姓名ノ者ニ非ストノコトヲ表スル丈ノ効能ナル故丁度何縣士族若クハ平民又ハ何町何番地抔記スト同様ナリトノ趣意ナリ畢竟捺印證書ノ認方ニ關スル規則ハ甚タ嚴重ニテ少シノ違式ヲモ容サハルコト恰モ現今本邦ノ郡區役所戸長役場ニ差出ス書面ニ於ケルカ如シ

第四問(第七號六七丁) 全前

尙一人此契約ニ就テ云々尙一人トハ代理人ノコトカ

答

尙ホ一人トハ本人ヲ指スナリ今少シ前後ヲ照シ合セ熟考アリタラハ此質問ハ蓋シ起ラサリシナラン

第五問(前同七七丁) 全前

本人ノ關係セサルヲ以テ本人其責ヲ負フモノトス[○]_○[○]_○[○]_{○圈點ノ處齟齬スルカ如シ何カ文字ニ誤ハナキヤ}

答

疑ハル、通り文字ニ誤アリ本人ノ關係セルヲ以テ云々ト讀ムヘシ本人ハ代理人ノ僞示ヲ許シタレハ躬自カラ其僞示ニ關係シタルナリ

第六問(第十二號一一一丁) 全前

第三ノ場合ニ於テ其規則若シクハ命令カ不相當ナラサルトキハ假令其命令ニ從ヒタル爲メニ損害ヲ生スルモ本人之カ責ニ任セサルナリ本件ハ英吉利使役者責任條例中ニアルモノニ由ルナレトモ抑モ如何ナル理由ニ基キタルモノナルヤ若シ命令不相當ナラサルトキハ本人責ニ任セストセハ奴僕カ此責ヲ負フモノナリヤ若シ奴僕ノ負フヘキモノトセハ豈ニ不都合ナラスヤ何トナレハ主人ノ下シタル命令ナレハ相當ト不相當トヲ問ハス奴僕ハ是非トモ其命ヲ奉セサルヲ得サルノ義務アリ然ルニ主人ノ命令ノ當不當ニ依リテ奴僕カ責任ヲ負フコトアリ又免ル、コトアリトハ如何ナル理由存在シテ然ルカ敢テ説明ヲ請フ

答

主人ニ責任ナキ場合ニ於テ爲害奴僕ハ被害奴僕ニ對シテ責任アルハ

通常ノコトナルヘシ但爰ハ主人ニ責任ノ有無ヲ論スル所ナルカ故ニ
 奴僕ト奴僕トノ關係ヲ說サリシナリ扱主人ノ命令ヲ守ルノ義務アル
 奴僕カ其命ヲ奉ジタルヨリ害ノ生シタル場合ニ於テハ命令ノ當不當
 ニ論ナク主人ニ責任アル可キ筈ナラントノ疑ハ一應尤至極ニテ他人
 ニ對スルトキハ勿論主人ニ責アルナリ然レトモ共役奴僕等ハ齊シク
 同一ノ主人ノ命ヲ承ケ云ハ、相並テ稼キ居ル者共ナレハ相互ニ用心
 シ合フハ當リ前ニテ且互ニ過ヲ仕合フノ危険ハ就雇ノ當時既ニ覺悟
 シタルモノト看做スハ習慣法ノ原則ナリ使役者責任條例ハ唯此習慣
 法ノ餘リ辛ク當ル場合ヲ取除キタル迄ニテ右ノ原則ヲ變シタルモノ
 ニアラズ尤モ習慣法ニ於テモ主人カ異常ノ危険ニ當ラシメタルカ爲
 メ奴僕、損害ヲ被リタル時ハ主人ニ賠償ノ責ヲ負ハスルコト講義錄代
 理法第百八丁第百九丁ニ見ユ而シテ此條例ハ不相當ノ規則若クハ命

令ナ異常危険ノ一種ナリト制定シタル迄ノコト、知ル可シ
第七問(第十四號一一四丁) 同前

確然期スヘカラサル利益ノ損失云々此一項ニ就テ例ヲ乞

答

例ヘハ横濱表ノ甲ハ其代理人ナル在函館乙ニ命シ今月初旬ニ或海産物ヲ積送ント云ヒタルコ乙ハ何カニ取紛レ十四日頃ノ船ニ積入レタリ然ルニ十三日ニ甲ノ當テニモセサリシ外國船横濱ニ入港シ其海産物ヲ求メタルニ因リ他ノ商人ハ思掛サル利益ヲ占メタリトセンニ甲ハ乙ニ對シ已レモ儲ケ得ヘカリシ金高ヲ賠償トシテ要求スルノ權アルヘカラス何トナレハ彼外國船ノ入港ハ素ヨリ不圖シタル出來事ニテ其船ノ需用ニ應シテ得ヘカリシ利得モ隨テ豫期シ難ク亦實際豫期セサリシ利益ナレハナリ

第八問(第十四號一一八丁)

全前

又外國ニ在ル本人ノ爲メニ取引シタル代理人アルトキ第三者ハ代理人ヲ信用シタルモノトノ推測下ルナリ代理人ハ外國ニ在ル本人ノ住所姓名ヲ告ケタリト否トテ問ハス第三者ハ代理人ヲ信用シタルモノト推測スルモノナルヤ果シテ然リトセハ前ニ掲ケタル例ニテハ東京日本鐵道會社ノ代理人橫濱ニ至リテ取引シタルトキ第三者ハ本人即チ日本鐵道會社ヲ信用シタリト云ハサルヲ得ストアリ依之觀之前後相矛盾スルカ如シ右ハ本人住居ノ遠近ニ據リテ信用ノ有無ヲ定メタルモノナリヤ果シテ然ラハ其遠近ノ度ヲ定ムルハ如何

答

本人外國在住ノ者ナルトキハ代理人ヲ信用スルトノ推測ハ畢竟本人ヲ信シ様ニモ何分知ラヌ異國ニ住ム人ナレハ住所名前スラモ確ト分

ラス假令住所姓名ヲ知レハトテ果シテ資産ノ有ル人ヤラ貧乏者ヤラ
モ知リ得難シ又假令夫カ分リタリ迎向カ間違ノ生シタル時ハ態々數
千百里ノ海山ヲ越涉リ本人住居ノ地ニ出張テ其管轄裁判所ニ權利ノ
有無ヲ爭フノ難義アルカ故ニ通常先ハ代理人ヲ當ニ取引スルモノト
看做スカ相當ナルニ出ルコトナリ日本鐵道會社ノ例ト矛盾スルトノ
疑ハ蓋シ今一度講義錄ヲ熟閱シタラハ他人ノ智惠ヲ借カラストモ自
カラ消解スルナラン最後ノ疑惑モ外國ト云フ文字ヲ凡ソ十分間モ腕
ミ付タラハ吾ナカラ時計ノ長針カ十度動カサリシ前ニ比ヘテ餘程發
明ナル人ト爲リタルコトヲ感スルナラン

親族法

第二問(第四號二二丁)

世ノ中ニハ不完全ノ婚姻ヲ正當トスル必要ヲ生ス云々國會ニ權力ヲ

山崎 迂太郎

任ス云々

必要トハ如何ナル場合ヲ指ス乎將タ國會ノ權力ニ任スルトハ如何ナルコトカ

答

茲ニ不完全ノ婚姻ト云フハ法律ニ禁シタル血統ノモノカ(例ヘハ亡妻ノ妹ト婚姻スルノ類)結ヒタル婚姻ノ如キ場合ヲ云フモノニシテ法律ハ其婚姻ヲ正當ト認ムルコトヲ得ス然レトモ男女法律ニ背キ婚姻シタル以上ハ其子ハ私生ノ子トナラサルヘカラス斯ル場合ニ於テ其夫妻ヲ分離セシムルコトハ人情ノ忍ヒサル所ナルヘク且ツ罪咎ナキ子女迄モ私生ノ子ノ汚名ヲ蒙リ父ノ相續ヲ爲スヲ得サルニ至ルヘシ故ニ國會ハ英國政權ノ最大集合体ナレハ此國會ニ於テ右等ノ場合ヲ救濟スヘキハ至當トス且ツ必要ナル場合トノミアリテ其個條ヲ定メサル

關シテハ少類ノ科金ヲ課スル所ノ種々ノ規則ヲ設ケタリ又金錢貸借ノ利子ヲ一箇月百分ノ一ト定メ是ヨリ以上ノ利ヲ貪ルモノニ其現金四倍ノ罰金ヲ課スルモノトセリ且又詐僞ヲ用ヒテ證人トナルモノハタルビアン岩上ヨリ投棄シ正當ノ方式ニ於テ證人若シ其舉證ヲ肯セサルキハ之ヲ不名譽罪ト稱シ魔術者及ヒ毒殺者ハ重罪ノ刑ニ處スルモノトセリ

第九表ハ公法ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ一ノ特典則チ一個人ニ關係スル法律ニアラサルナリ郡會ハ獨リ重罪ノ刑ヲ宣告シ得ルモノニシテ判官或ハ仲裁者ノ賄賂ヲ取ルモノハ重罪ノ刑ニ處ス可キモノトシ而シテ各刑罪宣告ニ對シテ人民ハ上告スルヲ得ルモノトシ敵人ト同盟シ或ハ敵人ニ府民ヲ引渡シタルモノハ死刑ニ處スルモノトセリ

第十表ハ葬式ニ關スルモノニシテ其儀式及ヒ虚飾ヲ制限スルノ規則ナリ

第十一表ハ貴族ト平民ノ婚姻ヲ禁スルモノナリ

第十二表ハ雜則ヲ規定スルモノニシテ譬ヘハ他人ニ傷害ヲ加ヘタル奴隸ハ其賠償トシテ之ヲ被害者ニ交付スルモノトシ又無益ノ目的ニ供スル爲メニ貸借ノ契約ヲナシタルトキ或ハ仕拂ヲ受クヘキ金圓ニシテ無益ノ目的ニ消費セラル、トキハ負債者ニ属スルモノハ其何物タルヲ問ハス之ヲ取押フルコトヲ許可シタル等ノ如シ且此十二銅表ハ四種ノ訴訟法ヲ公認シタル其訴訟法ノ性質ノ如キハ此緒論ノ末尾ニ於テ之ヲ論スルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス今四種ノ訴訟法ヲ擧クレハ則チ^いサクラメンタム「ギエーデシス、ボスチ、ユラシヨ」疆堺裁定ノ審査ニ用ユル方式「マナス、インギエクシヨ」及

平民政治
上同等ノ
位置ニ達
スルコト

ヒ「ビグノリスカピチ」負債主ノ物品取押ノ方法はナリ尙又此銅表ハ
施政官ト裁判官トノ區別ヲ公認シタル者ニシテ是蓋シ羅馬訴訟手續
ノ著シキ顯狀ナリ而シテ以上數種ノ訴訟法ト此施政官ト裁判官トノ
區別ハ恐クハ十二表ノ時ヨリ以前已業ニ存在シタル者ナルヘシ又此
銅表中ニ於テ羅馬固有法ノ著明ナル點ヲ發見スルヲ得ヘシ即チ家長
權、期滿得權、後見職、遺囑并ニ無遺囑相續「チキシアム、マンシベシヨ」ノ如
キ皆其効力ヲ有スルモノニシテ羅馬古代習慣法ノ一部ヲナシタルヤ
明瞭ナリ

第九節 平民政治上同等ノ位置ニ達スルコト

十人政治ハ元ト貴族平民間ニ存在セル政治上ノ區別ヲ當時ニ於テ成
シ遂ケ得ヘシト信シタル丈ケ脱却スルノ手段トシテ設ケラレタルモ
ノナリト雖モ實際ヲ顧ミレハ殆ント其目的ヲ達スルコト能ハサリシ

ニ驚カサルヲ得ス何トナレハ十人政治ノ半數ハ平民ヲ以テ之ニ充ツ
ルト雖モ「キユリア」議會集會ノ廢止及ヒ「トリビウン」官ノ消滅ハ僅ニ
之ヲ償フニ司法官ヲ以テセリト雖モ元來司法官ナルモノハ常ニ貴族
ト相結合シ唯々トシテ其隨使スル所トナリシヲ以テ實際平民ノ利益
ヲ保護スルニ足ラサリシナリ加之十人政治第二世ノ時ニ至リ新ニ二
表ヲ増加セリ而シテ後世ノ學者ハ其表中記載スル所ノ規則ヲ論シテ
甚ダ不正ナルモノトセシカ就中平民ニ通婚權ヲ與フルコトヲ禁シタ
ルカ如キハ吾人モ亦取ラサル所ナリ
抑モ十二銅表ハ法律ヲ確定頒布セシヲ以テ平民ニ強大ナル勢力ヲ與
ユルノ根源タリシノミナラス將來貴族トノ競争ニ於テモ亦平民ヲシ
テ鞏固ナル位地ヲ保持スルヲ得セシメタリト雖モ彼ノ十人政治ナ
ルモノハ實ニ平民ニ取テ不利ヲ與ヘタル者ニシテ平民政治上ノ歴史

Lex Caniuleia.

Lex

Horatius
Valerius.

中一大危厄ト言ハサルヲ得ス況ンヤ「アプピアスクローギアス」及ヒ其
 同類即チ十人政治ノ一タヒ滅亡ニ歸スルヤ否ヤ平民ノ著シキ進歩ヲ
 現ハシタル事實ヲ以テ之ヲ見ルモ又其不利ナリシヲ證明シ得ヘキニ
 於テチヤ
 「ホラシアス」及ヒ「ワレリアス」ノ法令出ツルニ及ヒテ獨リ司法官ノ裁決
 ニ對シ上告ヲ爲スヲ得サル所ノ憲法ヲ廢止シタルノミナラス猶ホ「ト
 リビウン」議會ノ命令ト雖モ元老院并ニ「キユリ」議會ノ二者之ヲ認可
 スルニ於テハ羅馬全府民ニ對シ効力ヲ有セシムルコトヲ規定シタリ
 而シテ羅馬建都三百九年即チ十人政治廢絶ノ後僅ニ四年ヲ經テ「カニ
 ウレアン」法令ハ平民ニ通婚權ヲ與ヘ是ニ於テ平初メテ平民貴族間ノ
 婚姻ハ法律ノ禁セサル所トナレリ
 此變革ハ實ニ各個人ヲ抑壓シ且私交上ノ關係ヲ紊亂シタルニ族間ノ

區別ヲ滅却シタルノミナラス尙ホ當時宗教法ヨリ生スル所ノ二族間ノ障礙ヲ破壞シタルカ故ニ右ノ變革ハ政治沿革上最モ緊要ナルモノト言ハサルヲ得ス何トナレハ從來貴族カ平民ヲシテ政府ノ官吏ニ任スルコトヲ得セシメサリシ理由ハ一般ニ宗教上ノ無資格ニアリタレハナリ而シテ又二族間ノ婚姻ヲ禁止シタル所以ハ主トシテ宗族^{ゼンス}ノ神聖^{サクハラ}ヲ毀壞センコトヲ恐レタルニアルヲ以テ一タヒ此禁ヲ解除スルニ及テ政權ノ同等ヲ促セシコト蓋シ僅少ニアラサリシナリ然リト雖モ平民カ貴族ト同等ノ政權ニ達スル間ノ進歩ハ頗ル緩漫ナリシモノニシテカニウリアン法令ノ發布以還百五十年ノ久シキヲ經テ漸ク二族同等ノ地位ヲ占ムルニ至リシナリ故ニ羅馬建都四百六十七年即チホルテンシア法令ノ發布セラレタル時ヲ以テ吾人ハ始メテ二族ノ區別實際消滅シタリト公言スルヲ得ヘシ何トナレハ此法律ノ

發布ニ因テ平民ハ公法及ヒ宗教法ニ於テ同一ノ權利ヲ享有シ而シテ
 「トリビウン」議會ノ命令ハ元老院ト「キリユ」議會ヲ認證ヲ要セズ直ニ
 發布シ以テ全羅馬人民ニ法鎖ヲ生シタレハ是ヨリシテ二族ノ區
 別ハ更ニ其痕跡ヲ止メス全ク同等トナリ、平民ハ支配人トナリ、市正ト
 ナリ、奉行トナリ「ギユル、エーダエル」トナルヲ得ヘク又元老院議員
 或ハ司法官トナルヲ得ヘク加之宗教法ノ特權ニ於ケルモ亦一トシテ
 享有セサル者ナク僧正或ハ陰陽士トモナルヲ得、良シヤ猶ホ未ク殊別
 ノ宗族ニ屬スル神聖カクテノ如キ或ハ二三ノ宗教儀式ノ如キ或ハ殊別ナル
 神明ノ職務ノ如キハ干與スル能ハサリシト雖モ是等ハ固ヨリ政治上
 ノ地位ヲ左右スルニ足ラサリシナリ故テ以テ法律史ニ關シテ是ヨリ
 以後吾人ハ平民ト貴族ノ區別ヲ失フモ、ノ如シ

第十節 羅馬固有法

後世羅馬法學士ノ著述就中「ガイアス」シセロ「三氏」ノ著書及ヒ今日吾人ニ傳ハル十二銅表ノ斷片等ノ數者ヨリシテ一般文明ノ進歩カ羅馬固有法ヲ變更シタル前既ニ羅馬早世ニ於テ存在シタル固有法ノ要領ヲ蒐集スルヲ得ヘシ

是等ノ古代法律ハ習慣ヲ以テ其基礎トナシタルモノナレハ十二銅表ニ記載セラル、モノ、外ハ唯口碑ニ由テ知ラル、ニ過キサルナリ而シテ後世是等ノ法律ヲ總稱シテ「シヤスシ、ウヰリ」則チ羅馬國ノ固有法ト言ヘリ

抑羅馬法ノ歴史ハ此所謂固有法ナルモノニ生シタル變化ト之ニ加ヘタル増補ト之ヲ實施スルニ當テ適用シタル方法トノ歴史ニ外ナラサルヲ以テ多クハ不文律タル此習慣法ノ全體ハ後世ノ新思想ニ感染シタル諸人ニ因テ廢棄セラル、ニ至ラサリシモ之カ爲メニ刪除若クハ

敷衍セラレタルコトハ羅馬法ヲ學ハント欲スルモノ、最モ明瞭ニ記
臆セサルヘカラサルモノ也羅馬固有法ハ常ニ羅馬法ノ發端ト爲サ、
ルヲ得サルカ故ニ後世其法律ノ沿革史ヲ討究スルニ當テ吾人ハ必ス
其固有法ノ尙ホ効力ヲ失ハスシテ依然其注意ヲ存シタルニモ關セス
時代ヲ異ニスルニ從ヒ此固有法ヲ削除シ若クハ補充シ以テ其時勢ノ
必需ニ應センカ爲メニ如何ナル方法ヲ以テ後世ノ法律ハ制定セラレ
タル乎ヲ討究セサル可ラス而テシ此固有法ハ羅馬帝國ノ末世ニ至テ
始メテ除去セサル可キノ傾向ヲ生シタリ吾人ハ羅馬私法ヲ論スル時
ニ於テ所謂固有法ナルモノ、重要ナル部分ハ如何ナルモノナルヤヲ
述ント欲スレハ今茲ニ之レヲ論スルヲ要セス唯吾人ハ羅馬法ヲ學ハ
ントスル人ニシテ若シ其綱領ニ通曉スルニ於テハ此等特殊ノ主義ハ
其濫觴ヲ太古蒙昧ノ時代ニ發シ後世法理ノ全體ニ影響スルモノニシ

テ其關係スル所主トシテ家族中其家父ノ位地及其所有地ノ相續又ハ耕地上地主ノ所領ニ關スル契約及ヒ詞訟等ヲ決定スルニアルコトヲ發見スル敢テ難キニアラサルヘシト云フニ止マルナリ

第十一節 伊太利征服

伊太利ノ征服及ヒ其他羅馬人ノ戰勝漸次其範圍ヲ擴張スルニ當テ實ニ羅馬法ハ其性質ナ一變シタルモノ、如シ何トナレハ征服セラレタル邦國都府ノ羅馬本邦ニ對スル種々ノ關係ヲ規定スルカ爲メニ自然全ク新ナル法律ノ一枝派ヲ發生シ來リタレハナリ蓋シ往古ノ他ノ國民ニ比スレハ羅馬人ハ概シテ其征服セラレタル人民ヲ支配スル極ノテ賢明寛大ナリキ實ニ二三ノ地方官ハ其權力ヲ擅ニシ大ニ人民ヲ苦シメタルモノアリシト雖モ要スルニ羅馬ノ政略ハ決シテ苛酷ナルモノニアラサリシナリ然リ而シテ羅馬ハ其附屬國民ノ須要ト服役ノ度

○第一科教課及受持講師姓名
 第一學年

ハ参考科
 ○ハ科外

一法學通論每週法學士 山田喜之助

一契約法全二時法學士 土方寧

一私犯法同上法學士 奧田義人

一親族法全一時法學士 山田喜之助

一日本刑法全上法學士 岡山兼吉

一代理法全上米國法律學士 菊池武夫

一動產委託法全上法學士 元田肇

一組合法全上法學士 松野貞一郎

一英語學全上 菅沼達吉

●英國刑法全上法學士 澁谷惟忠

●羅馬法同上法學士 坪井九馬三

○論理學同上法學士 植村俊平

○判決例同上法學士 駒井重格

○理財學同上法學士 駒井重格

○第二學年
 一賣買法每週法學士 高橋捨六
 一不動產法同上法學士 伊藤悌治
 一動產法同上法學士 山田喜之助

一財產法同上法學士 增島六一郎

一證據法同上法學士 岡村輝彦

一會社法同上法學士 植村俊平

一流通證書法同上法學士 土方寧

一商船罪法同上法學士 高橋健三

一治罪法同上法學士 松野貞一郎

一訴訟法同上法學士 增島六一郎

一民擬律擬判同上法學士 菊池武夫

一判決例同上法學士 植村俊平

一英語學同上 菅沼達吉

●米國法律同上米國法律學士 シドモル

●民訴訟演習同上 工藤繁人

○法理學同上法學士 奥田義人

○成法理論同上法學士 高橋健三

○保險法同上法學士 伊藤悌治

○國際公法同上法學士 植村俊平

○第三學年
 一財產法同上法學士 增島六一郎
 一破產法同上法學士 中橋德五郎

一 訴訟 法同上ばりまごる 士増島六一郎
 一 保險 法同上法學士 伊藤 悌治
 一 衡平 法同上法學士 戸水 寛八
 一 沿革法理學同上ばりまごる 士増島六一郎
 一 法理學同上法學士 奥田 義人
 一 羅馬法同上法學士 植村 俊平
 一 國際公法同上法學士 山田喜之助
 一 國際私法同上法學士 植村 俊平
 一 判決例同上法學士 山田喜之助
 一 刑擬律擬判同上法學士 吉田直太郎
 一 英語學 法同上法學士 植村 俊平
 一 憲法 法同上法學士 植村 俊平
 一 行政法同上法學士 江木 衷
 一 米國法律同上法學士 シドモール
 一 動産差押法 同上法學士 シドモール
 一 訴訟演習同上法學士 藤 則勝

○第二科教課及受持講師姓名

第一學年

ブルーム氏 英法註釋 每週 法學士 山田喜之助

マークビー氏 一 法律論綱 同上法學士 馬場 愿治
 アンソン氏 一 契約 法同上法學士 松野貞一郎
 スミス氏 一 契約 法同上法學士 同
 アンダーヒル氏 一 私犯 法同上米國法律學士 菊池 武夫
 アチソン氏 一 私犯 法同上法學士 同
 ストリー氏 一 代理 法同上法學士 同
 ストリー氏 一 代理 法同上法學士 同
 ケント氏 一 動産委託法 同上法學士 元 田 肇
 ホロック氏 一 親族 法同上法學士 山田喜之助
 スミス氏 一 組合 法同上法學士 松野貞一郎
 スミス氏 一 訴訟 法同上法學士 澁谷 懺爾
 ハリス氏 一 英國刑法 同上法學士 同
 スミス氏 一 英國刑法 同上法學士 同
 テリー氏 一 商法 法同上法學士 伊藤 悌治
 セボン氏 一 法律原論 同上法學士 藤田隆三郎
 セボン氏 一 法律原論 同上法學士 澁谷 懺爾
 セボン氏 一 法律原論 同上法學士 坪井九馬三

法學士高橋捨六先生著

英米身分法

洋製美本全一冊
定價九拾錢

十月廿五日發兌

身分法とは一に親族法とも稱し婚姻離婚を始め夫婦親子後見人及び主人奴僕等に關する法理を網羅詳論せるものなり殊に本書の高橋先生一にの専修學校の教科用に供せんが爲め沈く英米の法典を參照し章を分て節とし節を分て則とし專ら簡易明解を主とせられたる著述なれり恰も一部の法典を見るに異をたらさず故に法律に志すの人の勿論荷も親たり夫妻たり後見人たる身分ある人の熟讀し賜ふべき良書たり尙購讀者諸君の便宜を計り目錄書并に見本を調製し置たれば左店の中へ貳錢郵券寄送次第進呈す

神田區表神保町一番地角

英吉利法律學校
教科書賣捌所

錦水堂

京橋區銀座四丁目

發賣所

博聞社

法學士山田喜之助先生著

增訂英國私犯法

第三版美裝洋本
全一冊
定價七十五錢

英國私犯法ハ英米法律ノ精華ニシテ民事上ニ於ケル吾人ノ權利義務ヲ詳論シ損害賠償ノ軌範ヲ示シ他ノ諸種ノ法律ニ比スルニ原則ノ類最モ多ク且重要ナルモノニシテ法律ヲ學ブ者先ツ此ヨリ悟入シ以テ法律思想ノ根底ヲ培養セサルヘカラス羅馬法律佛蘭西ノ如キハ私犯法ナキニ非スト雖モ之ヲ一大法類トシテ精覈シタルモノナシ此編ハ則チ其遺漏ヲ補フモノニシテ向キニ大學法學部專門學校英吉利法律學校等其無數都鄙ノ官私法學校ノ教科用書ニナリタルヲ今般増訂ノ上第三版ヲ發兌スルニ至レリ著者ニ於テ非常ノ注意ヲ以テ前版ノ誤謬ヲ正シ有益ノ材料ヲ增加セラレ活版印刷モ亦甚ク鮮明ナリ江湖ノ法曹一本ヲ購フテ座右ノ珍トナシ玉ヘ

東京京橋區三十間堀一丁目

發兌書舖 九春堂

法學士山田喜之助先生著
英米親族法

洋裝美本全壹册
實價金九十五錢
郵稅二十六錢

親族法ハ夫妻親子後見人被後見人等ニ關
スル一切ノ法理ヲ網羅詳論スルモノニシ
テ所謂身分法ト云フモノナリ而シテ本書
ハ特ニ注意シテ家族ノ財産制度ヲ反覆叮
嚀ニ説明シ英米古代習慣ヨリ現行法ニ論
及シタルハ方今社會的ノ論議ノ盛ナル
時ニ當リテハ獨リ法律家ノミナラス我日
本國ノ社會ヲ再造シテ歐米ノ如クナテシ
メントスルノ志士ハ希クハ潜心熟讀取捨
スル所アルヘキナリ

東京日本橋區久松町十五番地

博文堂

發兌書肆 原田庄左衛門

廣 告

本校幹事法學士渡邊安積儀病痾
療養ノ爲メ熱海ニ入浴中本月廿
四日死去致候ニ付此段校外生諸
君ニ告ク

明治二十年二月

英吉利法律學校

明治廿年三月五日

(定價金貳拾錢)

持 主 增島六一郎

印刷人 大谷木備一郎

編輯人 澁谷慥爾

發行所 神田區錦町貳丁目貳番地
英吉利法律學校